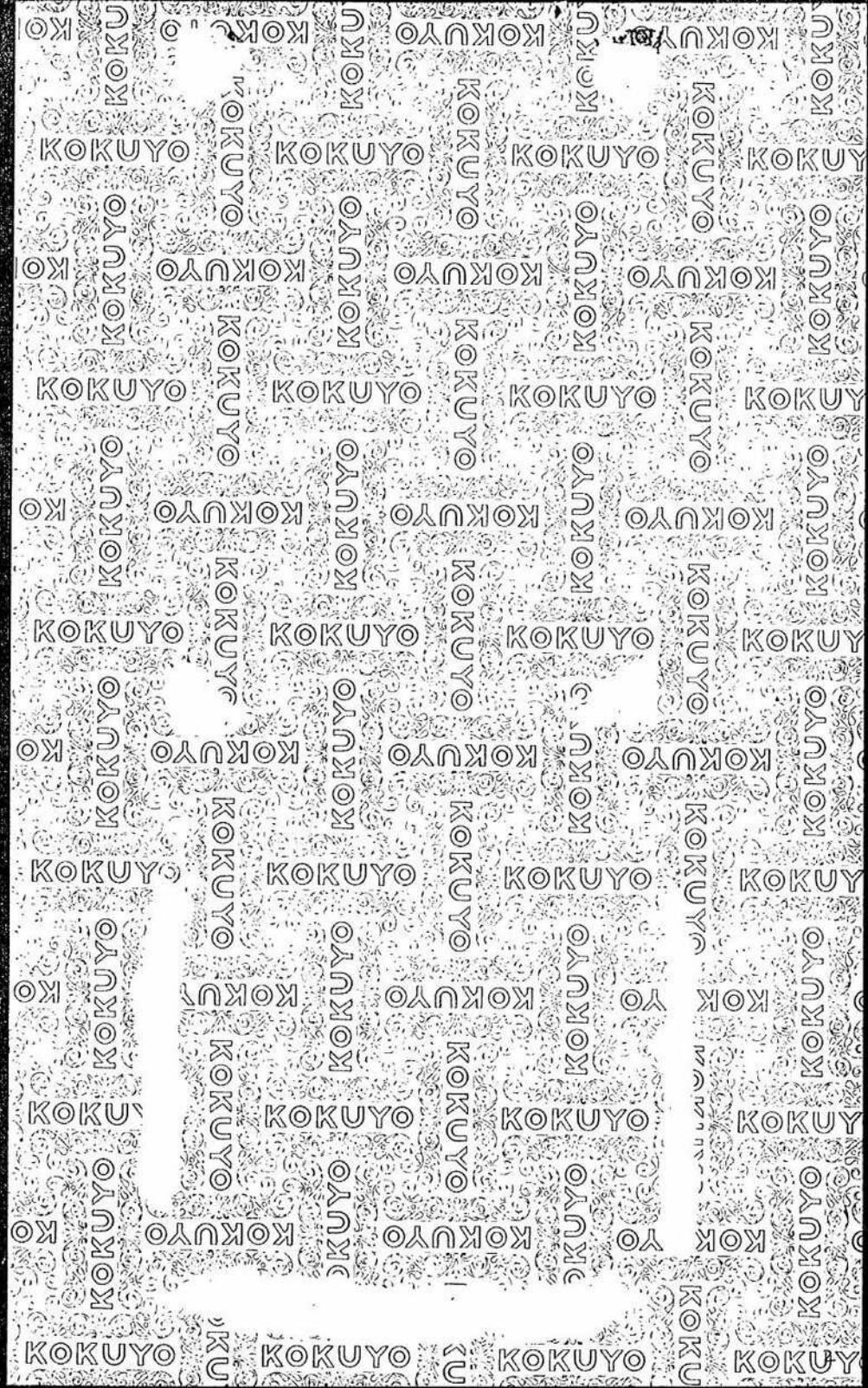
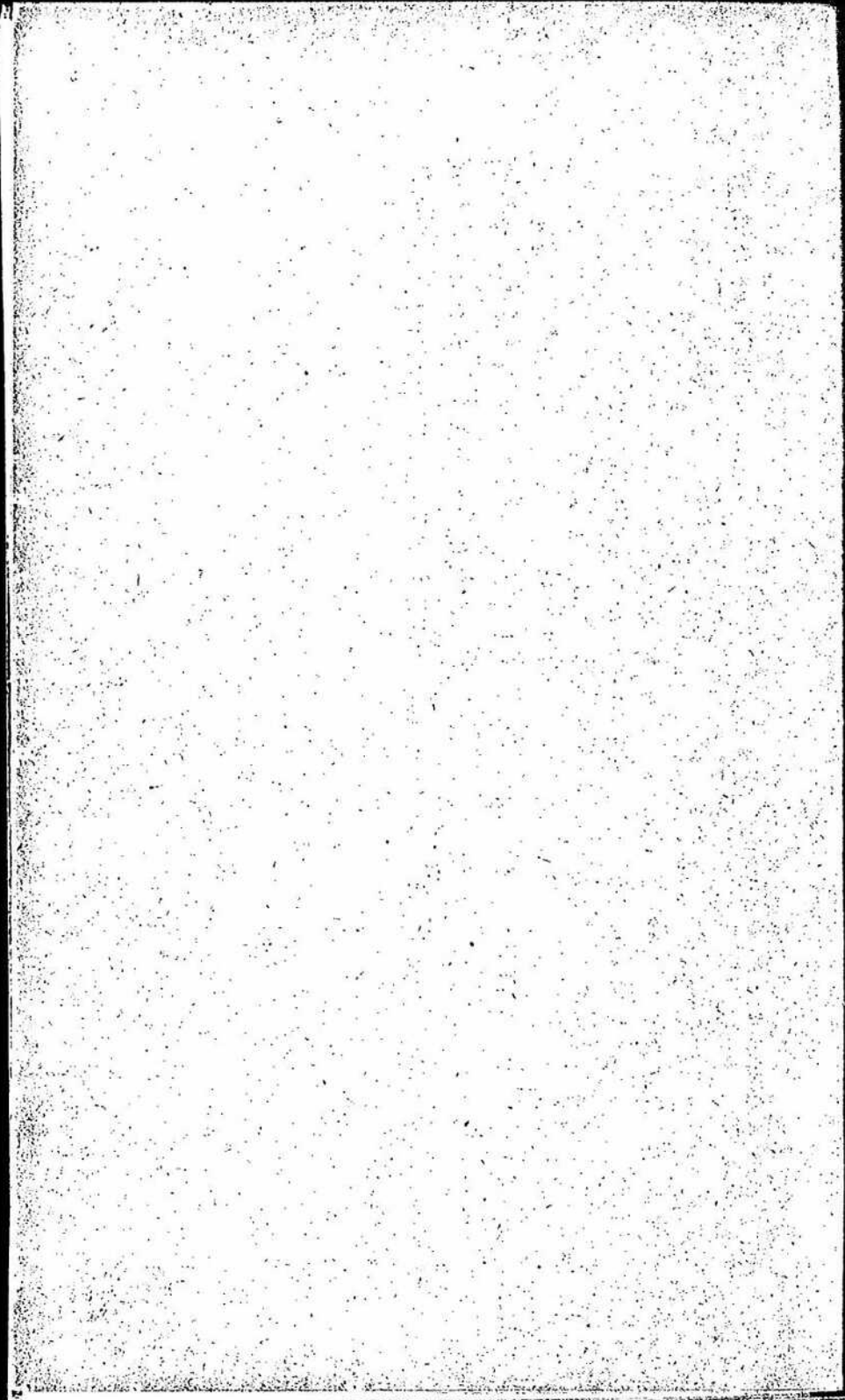


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

国立公文書館	
分類	警察庁
	9
架番	4 E
号	15-
	618



(1)

凡 例

一、この資料の名称は、警視庁文書課「初期の警務制交」へ
 刊本二冊・昭十一年六月・非愛島）其の一巻頭の、当時、文書課長
 岸本太郎名義の司書刊に、初とあり、中にある次の文句
 に依つて知つたのであるが、成り以前のことであつた。

……当庁には、明治二十七年三月印刷の「警視庁史稿」
 があり、警務研究家には唯一無二の文献資料とレク
 重用せられて居るが、此の「史稿」の記事は、明治七年
 一月東京警視庁創設の時に始まり、其以前、即ち明治
 初年（一）から七年（二）へ正確には、六年である（中略）この
 所謂「警務制交」は、続時代の記事を缺いて甚だ残念な
 である。この外に「警視庁史稿前記」と称する参考文
 献が僅か一冊あり、これに根拠として「警視庁創設迄」
 の初期の警務制交の事蹟を記録せんと規画したものが、

(日本標準規格目録5刊)

警視廳史稿前記

文書課記録係

警視廳史稿前記

警察ノ名維新以降ニ創ルト雖モ其制ノ今ニ
 行ハル、所既ニ舊幕府施政ノ日ニ創始セシ
 モノ亦鮮ナカラス蓋シ國ヲ有テ民ヲ治ル者
 固ヨリ一日モ此設ケ莫カル可ラサルヲ以テ
 ナリ但覇政ノ餘封建ノ治其制度ノ殊ナルカ
 為メニ施為ノ迹亦多少ノ同異アリト雖モ之
 ヲ要スルニ邦家ノ安寧ヲ維持シ民生ノ禍亂
 ヲ杜防スルニ外ナラス慶元以降官ヲ設ケ職
 ヲ領テ令スル所禁スル所多カラストセス今
 維新以降警視廳創置以前ニ係ル警察ノ制度
 ヲ敘スルニ當リ少シク其因襲スル所ヲ記サ
 、レハ復其損益スル所ヲ知ルニ難レ然リト

三奉行

雖モ往時警察ノ制タル習慣法或ハ各法制禁
 令ノ中ニ隱顯シ且文籍ノ完備セサルヲ以テ
 今之ヲ條分縷析スルコト能ハス因テ姑ク舊
 史ヲ搜リ或ハ聞見スル所ニ就キ禁令等ヲ抄
 録シ往時警察ノ制度ニ關スル一斑ヲ記シテ
 之ヲ其首端ニ掲ケ聊カ今昔ヲ參觀スルノ便
 ニ供ス挂漏ノ責固ヨリ免ル、コトヲ得ス夫
 ノ遺脱ノ若キハ則チ他日ノ補訂ヲ待ツ
 徳川氏ノ制勘定奉行町奉行寺社奉行アリテ勘
 定奉行ハ持リ賤政ヲ掌理スルノミナラス地方
 ノ訟獄ヲ判決レ政令ヲ施行シ其職權ノ涉ル所
 至リ廣シ幕府所領ノ各地方ニハ治所稱陣屋ト
 設ケ吏員長官ヲ代手附手代ト稱シ置キ管内租稅

ノ徵收法令ノ施行聽訟斷獄及ヒ諸取締ノ事務ヲ掌理セシム而シテ代官ハ勘定奉行ノ指揮監督ニ屬セリ

勘定奉行ハ慶長十四年二月松平右衛門大夫ニ始ル關東代官ハ元關東郡代ト稱シ慶長以來伊奈氏世襲ノ職タリ寛政四年閏二月左近將監ニ至リ罪アリテ職ヲ免シ爾後勘定奉行之ヲ兼勤ス文化三年更ニ代官五名ヲ官邸ニ置キ郡代ノ職務ヲ領行セシメ勘定奉行之ヲ管ス其官邸ヲ馬喰町御用屋敷ト曰フ慶應二年十月關東郡代ヲ改メテ關東在方掛ト稱ス

江戸市中ハ町奉行ヲ置キ市中ノ庶務ヲ統管セシメ又神社奉行ヲシテ全國ノ神社寺院ニ關ス

ルコトヲ掌理セシム町奉行ハ天正十八年徳川氏關東入國ノ時ニ始リ慶長十三年南北兩所ニ分レ神社奉行ハ寛永十二年ニ始ル

勘定奉行定員

勘定奉行ハ旗下ニシテ其定員二名老中支配ニ屬シ役俸三千石其配下ニ屬スル公事方ノ役員ハ御勘定所組頭評定所留役三名留役御勘定二十三四名アリ

町奉行定員

町奉行モ亦旗下ニシテ其定員二名老中支配ニ屬シ役俸三千石其配下ニ與力二十五騎同心百二十人アリ與力ノ職名ヲ擧レハ吟味方町會所掛本所深川見廻り養生所見廻り高見積廻り牢屋見廻り町火消人足改橋並河岸地掛古銅吹所見廻り故帳撰要沽券人別掛例操方米藏宿取扱

寺社奉行定員

掛市中取締並諸色掛御肴青物御鷹餌鳥掛風烈
廻リ晝夜廻リ非常取締掛諸問屋組合掛隱密廻
リ臨時廻リ下馬廻リ人足寄場掛等ニシテ同心
ハ與カニ附隨レ常ニ其務ヲ助クル者トス
寺社奉行ハ五万石以上十万石以下譜代ノ諸侯
ニシテ其定員ハ四名老中支配ニ属シ其配下ニ
寺社奉行吟味物調役寺社役アリ調役ハ御家人
ニシテ定員四名寺社役ハ寺社奉行ノ家臣ニシ
テ定員四名或ハ三名ト為ス
三奉行ノ外別ニ大目付目付ト稱スルニ監司ヲ
置キ以テ將軍ノ耳目ト為シ政務ノ得失ヲ密告
セシメ且百僚ノ規則ヲ督視シ訟獄ノ屈枉ヲ暢
達スルコトヲ掌ラシム其下又小人目付ナル者

大目付目付

加役八州

アリ徒士目付ニ隸属スト雖モ閑老ノ命ヲ兼ケ
探偵ニ從事スルコトアリ是ヲ以テ當時警察ノ
名ナシト雖モ其事タル概子三奉行及ニ監司ニ
由テ施行セラレシモノト為ス寛永十三年始テ
評定所ヲ置キ老中大目付三奉行等參列シテ訟
獄ヲ聽斷セリ而シテ盜賊ヲ逮捕スルハ町奉行
ニ隸スル與カ同心アリ又若年寄ニ隸スル加役
アリ又勘定奉行ニ隸スル八州取締アリテ關東
八州ヲ巡行シ常ニ匪徒ヲ緝捕ス江戸市街ニハ
自身番今ノ區役所ヲ設ケ町役人ヲシテ常候セ
シメ武家邸宅ノ所在地ニハ辻番所ヲ設ケ以テ
街衢ノ警戒ニ備フ囚獄ハ小傳馬町ニ設ケ初ノ
橋門外品川淺草ニ兩溜アリテ病囚等ヲ置キ石

囚獄人足寄場

橋門外品川淺草ニ兩溜アリテ病囚等ヲ置キ石

町年寄

川島ニ人足寄場アリ徒罪場石出帶刀ナル者獄

務ヲ總轄シ其職ヲ世襲ス

江戸市中ニ町年寄ト稱スル者三人アリ町名主

二百三十五名之ニ屬ス而シテ町年寄ハ淺草猿

屋町會所御用掛市中取締公役書物掛鐵砲改入

別掛町々役火之見人足頭取掛等ノ諸務ヲ擔當

ス町年寄ノ外別ニ樽屋三右衛門ナル者アリテ

地割役ヲ擔當セリ

烟草禁

慶長十六年八月吸烟ヲ禁シ烟草賣買者ヲ訴ル

トキハ雙方ノ家賊ヲ官没セラ之ヲ其人ニ給シ

又各地方烟草ヲ作ルコトヲ禁ス元和二年十月

烟草ヲ作ル者町人ハ五十日百姓ハ三十日獄ニ

下シ烟草ヲ賣ル者モ亦同罪トシ而シテ耕地ノ

吉利支丹宗ノ禁

代官ニ過料ヲ科ス其後此禁漸ク弛シ元禄八年

十一月路上ニ喫烟スルヲ禁セリ

慶長十六年八月伴天連門徒ヲ禁シ其十七年三

月耶獲宗ヲ停止シ京都ニ在ル諫宗ノ寺院ヲ破

却シ吉利支丹宗徒ヲ嚴刑ニ處ス元和二年八月

又天主教ノ禁ヲ布キ其八年八月更ニ諫宗徒ヲ

隱匿ス可ヲサルヲ申令ス寛永年中島原ノ變ア

リテヨリ益之ヲ嚴禁ス其十二年吉利支丹ノ字

ヲ改メテ切支丹ニ作ル蓋シ將軍綱吉ノ吉字ヲ

避ルニ由ル兼應三年伴天連ノ訴人ニ銀三百枚

イルマンノ訴人ニ銀二百枚窩主竝ニ宗旨ノ訴

人ニ銀五十枚若クハ三十枚ヲ給スハキヲ高札

ニ揭示ス爾來寛文貞享ノ際ニ至テモ屢之ヲ申

宗門人別改

禁セリ是ヲ以テ戸籍ハ總テ僧侶ノ管スル所ト
為リ概シテ宗門人別改ト曰フ諸侯ニ在テハ每
年七月ヨリ十一月ニ至ルマテ各類族ノ生死婚
嫁改宗等ヲ查點シ之ヲ奉行所ニ録上ス之ヲ一
紙證文ト謂フ元祿四年四月日蓮宗中悲田派ヲ
禁シ寛政二年又三鳥派ヲ嚴禁ス所謂ル不受不
施宗是ナリ延享元年三月各名主ニ令シテ今後
四月九月兩次人別帳ヲ查點録上セシム且平素
借店入借地人出居衆掛リ人他所ニ移住セシ者
生産死亡或ハ他國ニ赴ク者奉公人出入妻ヲ娶
リ女ヲ嫁シ或ハ養子シ或ハ他家ヲ繼キ諸國出
店支配人ノ更迭又車夫日雇人等共同シテ一人
ヲ戸主ト為ス者其戸主ノ更迭其他逃亡久離等

銃砲ノ禁

時々増減シ上報セシム
正保二年府内ニ銃砲ヲ打發スルコトヲ禁シ明
曆二年十二月關東諸國ニ令シテ私ニ銃砲ヲ有
スルコトヲ許サス寛文元年三月又之ヲ申令シ
貞享二年二月之ヲ高札ニ掲示シ濫ニ銃砲ヲ發
スル者ヲ隱匿スルトキハ罰ニ處シ其之ヲ捕ル
者ハ銀三百枚其之ヲ訴ル者ハ銀百枚ヲ賞與ス
其後屢江戸十里四方竊ニ銃砲ヲ有スルコトヲ
禁シ享保六年ニ至リ往キニ令スル賞與ノ額ヲ
改メ銀三百枚ヲ銀二十枚ニ銀百枚ヲ銀五十枚
ト為ス

火災消防

正保三年三月令シテ火災アルトキハ近傍ノ者
ヲシテ速ニ走到シ消防ニ盡力セシメ消防官ハ

風勢ヲ察シ郭内ニ延焼スルノ虞アレハ先ツ郭内ヲ防禦シ晝夜巡廻ノ吏員風烈ノ時ニ際シテハ城郭ノ上風ヲ巡廻シ若シ火起ルトキハ務テ消防ヲ指揮シ不審ノ者ハ速ニ捕縛セシム慶安元年十二月市中ニ令シ務テ失火ニ注意セシム若シ火災アルトキハ貨物ニ關スルコト無ク傍近ノ者悉ク走到シ務テ消防ニ從事セシム其走到セサル者ハ罰ヲ科ス且火災アルトキハ過番ヨリ過番ニ報告シ過番人熟睡シテ知ラサル者ハ之ヲ橋上ニ暴サシム而シテ平日天水桶ニ水ヲ盈テ階子ヲ備置セシム其三年六月火消役ヲ置キ其四年十二月又失火ニ注意スヘキヲ申令シ從僕等ノ過誤ヨリシテ火ヲ失スル者ハ主人

其責ヲ辭スルコトヲ得ス且失火ニ際シ速ニ走到シテ消防スル者及ヒ放火犯ヲ訴ル者ハ之ニ褒賞ヲ與ヘ徒ラニ失火ヲ傍觀スル者ヲ嚴禁ス兼應元年三月失火場ニ盜賊多キヲ以テ不審ノ者ハ之ヲ捕縛セシム親戚等ノ家ニ趨キ救フ者ハ家主ノ札ヲ携帶セシム其四年三月一町内兩側ニ井八ヶ所ヲ設ケ一町ニシテ六十間ニ過ル者ハ十ヶ所横町茲ニ會所ニハ二箇所片町ハ一町ニ四箇所ヲ設ケ上水ノ通セサル町ハ天水桶ノ外猶兩側ニ八箇ノ水桶ヲ設ケテ常ニ水ヲ之ニ充ラシメ以テ消防ノ用ニ供ス明曆元年火災ノトキ從僕等主人ノ貨物ヲ竊取スル者アルヲ以テ之ニ注意セシム其三年二月失火場ヲ警固

セシメ親戚ニ非ルヨリハ趨キラ火ヲ救フコト
ヲ許サス強ヲ通行スル者ハ之ヲ捕ハ其命ニ抗
スル者ハ斬殺ヲ妨ケス失火場ニ在テ金錢其他
物品ヲ拾得スル者ハ速ニ町奉行所ニ進致セシ
メ若シ之ヲ隠蔽スル者ハ罪科ニ處ス其十月又
市中井ヲ埋ムコトヲ禁レ且失火ノ際器物ヲ井
中ニ投スルコト勿ラシメ又河岸地ノ廠屋等ヲ
撤去セシム万治元年十月失火地ノ方向ニ應シ
消防夫ノ集合地ヲ定メ其四年正月茅屋ヲ禁シ
土ヲ以テ屋上ヲ塗ラシム寛文元年九月市中失
火ノ際ハ正面三町左右二町裏町三町失火ハ町
ヲ合セテ九町片町ニ係ルトキハ左右二町裏町
三町失火ノ町ヲ合セテ六町ノ者ハ速ニ走到シ

之ヲ消防セシム且一町内ニ手桶六十ヲ備ハ片
町ナレハ同三十ヲ備ハテ常ニ水ヲ貯ハ又一町
内ニ階子六挺片町ナレハ同三挺ヲ備ハシム其
十月又一町ニ水溜四箇ヲ設ケ常ニ水ヲ絶ツコ
ト勿ラレメ井ナキ町ニハ五箇或ハ六箇ノ井ヲ
設ケレメ且火ヲ用ル行商ヲ禁ス其二年十一月
失火ノ際ニ町以内ノ者造作物戸障子等ヲ搬出
シ往來ヲ妨ルコトヲ禁ス其十年七月大烟火戲
ヲ弄スルコトヲ禁ス十二年二月大風ノ際道路
ヲ堀リ諸番物ヲ埋ムコトヲ禁レ且風烈ノトキ
ハ務ヲ道路ニ灌水セシム又失火ノ際士庶火ヲ
避ル者鑓或ハ長刀ノ白刃ヲ露出携持スルコト
ヲ禁ス延寶五年正月失火場ノ雜選スルカ為メ

ニ 吏員ノ外濫ニ 失火場ニ 集ル者ハ 斬殺セシム
天和元年十一月失火ニ 際シ 西國橋上ニ 長持櫃
竝ニ 車長持櫃ヲ 通スルコトヲ 禁シ 其三年正月
車長持櫃ヲ 停止レ 又失火ノ 際 器具ヲ 車ニ 載セ
テ 運搬スルコトヲ 禁レ 又風烈ノ トキハ 士庶ヲ
シテ 務ヲ 他行スルコト 勿ラシム 其十月又 万石
以上ノ 輦ヲ 行ラシメ 近傍失火ノ 際ハ 家臣ヲ 以テ 消
防ニ 從事セシメ 消防官 走到セハ 家臣ハ 退カシ
ムヘキヲ 令ス 貞享元年十月 本月ヨリ 三月ニ 至
ルマテ 風烈ノ トキハ 庶民ヲ 行ラシメ 務ヲ 在宅セシ
メ 行高等ヲ 業トスル者ハ 他出スルモ 尤モ 失火
セサルハ 注意セシメ 万一失火ノ トキハ 近傍ノ
者 百事ヲ 抛テ 消防ニ 從事セシム 其三年九月 毎

町番人ヲ 置キ 辻番ト 共ニ 火災ヲ 豫防セシメ 又
高ク 竹木ヲ 積ムコトヲ 禁シ 道路ノ 高低ヲ 平均
シテ 常ニ 之ヲ 掃除セシム 其十一月 又火ヲ 携帶
スル 行商ヲ 嚴禁ス 元禄十一年 九月 火事場 目付
ヲ 置キ 其十二月 火消遠出ノ 地ヲ 定メ 芝ハ 札ノ
辻 四谷ハ 大木戸 午込ハ 早稲田 小日向ハ 目白 不
動音羽ヨリ 護國寺ニ 至リ 小石川ハ 後殿ノ 後木
郷ハ 駒込 下谷ハ 金杉谷 中三崎 淺草ハ 觀音堂 八
町堀ハ 靈岸 島橋 木挽町 築地 尾州 邸ニ 至リ 本城
及ヒ 東叡山 増上寺ノ 上風ニ 失火スルトキハ 此
限ニ 在ラズ 麻布 御殿ハ 此外ニ 在リト 雖モ 傍近
ノ 失火ハ 走到セシム 是月 又失火ノ 際 家賊ヲ 馬
ニ 駄レテ 搬出スルコトヲ 禁ス 其十六年 町奉行

及ニ船手ニ令レ失火ノ際兩國橋新大橋永代橋
ニ渡船ヲ出シ家賊等ヲ運搬ニ便セシム寶永四
年三月失火ノ際囚獄ノ周圍ニ家賊ヲ搬出スル
コトヲ禁ス享保二年正月失火ノ際下風ニ在テ
ハ自家屋上ニ上リ飛燐ヲ防カシメ且造作物ヲ
道路ニ搬出シ通行ヲ妨ルヲ申禁シ其十月將軍
出行ノ日禁烟ノ令ヲ發シ注意ヲ嚴ニセシム蓋
レ火ヲ禁スルトキハ竊ニ火ヲ用ル者アルヲ以
テナリ其三年十月失火ノ際上風ニ町下風ニ町
傍風ニ町毎町ニ三十人ヲ出シ消防ニ從事セシ
ム其走到セサル者ハ之ヲ罰ス其八年各町ニ望
火櫓ヲ設ケ屋上ヨリ高ケ九尺ト為レ風烈ノト
キハ魯上ニ番人ヲ置カシム其九年三月本町本

石町小船町境町濱町神田通り湯島本郷駒込追
分牛込小石川西ノ久保芝等ノ鬘結ヲ業トスル
者消防ニ從事セント請フヲ以テ之ヲ許ス又失
火ノ際造作物ヲ搬出シ通路ヲ妨ルヲ以テ屢ニ
ヲ禁スルモ尚其止マサルカ為メニ今後此ノ如
キモノハ其物ヲ官役スヘキヲ令ス是ヨリ先キ
元禄年間伊賀蜂即次ナル者アリテ市民ノ屢火
災ニ罹ルヲ歎シ悉ク府内ノ板屋茅屋等ヲ止メ
瓦屋ト為サレト建言シ書三々ヒ上リテ用
ヒラレヌ當路者ノ忌ム所ト為リ終ニ其禄ヲ禡
ハル然ルニ享保六年ニ至リ言語ヲ開キ下情ヲ
通スルノ令アリ理趣ヲ評定所ノ門前ニ置カレ
シヲ以テ蜂即次再ヒ板屋茅屋等ヲ撤去シ悉ク

火主罰則

之ヲ瓦屋ニ改造シ且各所ニ空地ヲ設クハキノ
議ヲ献シ始メテ採納ヲ得タリ是ニ於テ其十二
年ニ水道橋外小石川小日向番町ヨリ駿河臺マ
テ茅葺ヲ禁ス爾後嘉永年間并戸對馬守町奉行
ノ時更ニ令シテ新造ノ家ハ瓦屋ト為サシム元
文二年十一月火主ヲ罰スルハ類焼ノ多寡ニ關
セズ押込十日以上三十日ニ至リ將軍出行ノ日
火ヲ失スル者ハ戸主五十日其家主月行事共ニ
三十日手鎖ヲ附シ火主ノ所有地沽券金額十分
一ノ過料ヲ徴ス但速ニ撲滅スル者ハ唯火主ヲ
罰ス文政七年五月類焼ノ間敷ニ應シ火主罰ノ
輕重ヲ定メ小間十間以上二十間以内ハ十日二
十間以上六十間以内ハ二十日一町以上三町以

祭禮ノ非違ヲ戒

内ハ三十日押込十間以下ハ無罪三町以上ニ至
レハ火主五十日五人組二十日共ニ手鎖ヲ附ス
慶安二年六月市中ニ令シテ山王祭禮ノ非違ヲ
戒メ元文三年九月神社祭禮ノ際大幟ヲ建テ提
燈ヲ掲ケ其他裝飾物ヲ出スヲ禁シ寶永五年九
月祭禮ノ報知ニ太鼓ヲ亂打スルコトヲ禁ス寶
曆九年五月再ヒ元文ノ令ヲ申禁シ寛政年間山
王神田其他祭禮ニ際シ從來定ル所ノ外歌舞萬
燈等ヲ出スヲ禁シ務ヲ冗賞ヲ節減セシム且市
中ニ壯丁ト稱シ祭禮或ハ神佛開帳其他慶吊ニ
關シ毎戸ニ金錢ヲ強請スル者ヲ嚴誡シ其命ヲ
用ヒサル者ハ封書ヲ以テ之ヲ上報セシム
萬治二年正月市中ニ紙鳶ヲ弄スルコトヲ禁シ

紙鳶ノ禁

借地借家人取締

紙為ヲ販賣スル者ヲ罰ス

慶安四年三月市中ニ令シテ借家人ヲ置ク者ハ
必ス保證人ヲ徴シ借家人若シ逃亡スルトキハ
保證人ヲシテ其責任ヲ負ハシム寛文十一年三
月又令シテ借地人借家人逃亡スルトキハ速ニ
名主ニ告ケ名主五人組眼同シテ其所有物ヲ點
檢シ町奉行ニ上報セシム天和三年九月又令シ
テ借家人ノ身位ヲ精査セシム

市中禁令

明曆元年十月市中ニ令シテ曰ク其一喧嘩ハ理
非ヲ論セス双方死ニ處レ人ヲ殺シ逃亡スル者
ハ必捜査シテ之ヲ罪シ其之ニ荷擔スル者ハ罪
本人ヨリ重シト為ス其二被官人ノ喧嘩並ニ盜
賊ノ科ハ主人ニ及ハスト雖モ證人ナキ者ヲ雇

使シ其人罪ヲ得テ逃亡スルトキハ其主人ヲシ
テ之ヲ捜査セシム其三童子ノ口論ハ之ヲ罰セ
ス其父母之ヲ制止シテ五ニ荷擔セシムル者ハ
之ヲ罰ス其四童子誤テ朋友ヲ殺害スルハ死ニ
處セスト雖モ十三歳以上ハ其難ヲ遁ルコト
ヲ得ス其五町年寄五人組ノ協議ヲ用ヒス我意
ニ任スル者ハ之ヲ罰ス但年寄非理アル者ハ町
中一同之ヲ申訴ス可シ其六負債アリテ死亡ス
ル者債主證書ナキトキハ之ヲ徴スルコトヲ得
ス相續ノ子ハ父ノ負債ヲ辨償スルノ責アリ子
ノ負債ハ父之ヲ辨償スルヲ須ヒス然トモ父ノ
加判フレハ其償ヲ免ルコトヲ得ス其七父母
ノ制詞ヲ肯カス町年寄ノ異見ヲ用ヒサル者ヲ

訴ルトキハ之ヲ獄ニ下シ猶命ヲ用ヒサル者ハ
久離シテ追放ス若シ父母ニ對レ遺恨ヲ存スル
者ヲ致ストキハ之ヲ死ニ處ス其ハ父子間ノ訴
訟ニシテ親戚鄰保之ヲ和辭スト雖モ肯カサル
者ハ法廷ニ對決セシメ子ノ非理ニ屬スル者ハ
父ノ意ニ任セ不孝ノ科ヲ以テ或ハ繫獄シ或ハ
久離追放セシム其九兄弟間ノ訴訟ハ對決セシ
ノ非理ノ者ヲ嚴戒ス其十夫婦間ノ訴訟ニシテ
離別ノ妻ニ屬スル金錢衣類等ハ之ヲ還付セシ
ム其十一商人主僕間ノ訴訟僕ノ非理ニ屬スル
トキハ獄ニ下レ主人ノ意ニ任ス其十二一旦長
子ニ讓與セシ家財ヲ取テ更ニ二子ニ讓與スル
者長子之ヲ訴ルモ父存スルトキハ父ノ意ニ任

ス但繼母ノ讒ニ依リ長子不孝ニ非ル者ハ家財
ヲ分與セシム其十三父母ノ兼諾ナキ女子ヲ掠
奪スルハ狼籍ナルヲ以テ之ヲ訴ルトキハ其男
ヲ罪ス其十四亡夫ノ財產ヲ得ル妻亡夫ノ親戚
ヲ以テ養子ト爲シ若クハ寡居スヘキニ却テ弱
年ノ男子ヲ求ルカ如キハ親戚鄰保協議處分ス
可レ其十五夫亡シテ子ナク其妻之カ財產ヲ有
シ而シテ亡夫ノ恩ヲ忘レ下人ト密通スル者ハ
之ヲ放逐シ夫ノ親戚協議シテ其財產ヲ管理ス
可レ其十六他人ノ妻ニ通スル者男女共ニ夫之
ヲ其姦所ニ殺ス者ハ其罪ヲ論セス證憑分明ニ
シテ之ヲ訴ル者ハ男女同罪ニ處ス然ルニ私ニ
遺恨ヲ挾ムコトヲ得ス其十七放火スル者一人

ニ對スル遺恨ヲ以テ衆人ヲ困苦セシムルハ實ニ重科ト為ス又偷盜ノ為ニ放火スルハ其罪輕カラサルヲ以テ父子同罪ト為ス其十八訴訟ヲ為ス者鄰保之ヲ和解スルモ兼諾セスレテ對決スル者ハ非理ノ者ヲ罰ス其十九謀書謀刃ハ嚴科ニ處ス執筆ノ者モ同罪ト為ス
寛文五年十一月修驗者山伏行人等招牌ヲ掲ケ梵天ヲ出レ或ハ市中ノ家ニ佛壇ヲ設置スルヲ禁シ又僧侶市中ニ法談ヲ催シ念佛講題目講ト稱シ僧俗集會スルヲ禁ス貞享元年七月僧侶或ハ修驗等佛像ヲ作り挑燈ヲ掲ケ高聲經ヲ誦シ寄進ニ托レ市中ヲ巡行スルヲ嚴禁シ元禄七年十月之ヲ申令レ且市中ニ於テ諸寺諸社ノ開帳

等ト稱シ勸進スルヲ禁止ス享保九年又大佛像ヲ運シ市中ヲ勸進スル者アルヲ以テ之ヲ禁停シ且佛師等ニ令シ三尺以上ノ佛像ヲ造ルトキハ官許ヲ請ハシム
寛文六年正月江戸中土取船砂取船ニ屋ヲ架スルヲ禁シ其十一年十月風雨ノ際小船流下シ橋梁ヲ損スルモノアルヲ以テ務テ繫留ニ注意セシメ十一月又令シテ兩國川ノ上流ニ論ナク其他各川ノ上流ニ在ル船ハ平素堅ク之ヲ繫留セシメ若シ流下シテ橋柱ニ衝突スルモノハ水防夫ニ給與シ且兩岸或ハ堤外ニ家ヲ作り水路ヲ妨ルヲ禁ス貞享四年十一月川船奉行ヲシテ川船ニ檢印セシメ元禄九年三月尚其檢印ニ洩ル

、者ヲ録上シテ更ニ檢印ヲ請受セシム正徳元
年五月芝鐵砲洲深川ノ三所ニ高札ヲ揭示ス其
略ニ曰ク其一官船ニ論ナク諸廻船遭難ノ際ハ
救助船ヲ出シ之ヲシテ破壊セサラシム可シ其
ニ破船ノトキ貨物船具等ヲ採集スル者浮物ハ
二十分ノ一沈物ハ十分ノ一ヲ其人ニ給ス但川
船ハ浮物三十分ノ一沈物二十分ノ一トス其三
洋中ニ在テ貨物ヲ投棄セシトキハ著船ノ港ニ
於テ吏員ノ検査ヲ請ケ残留品及ヒ船具ノ證書
ヲ請フ可シ船子其港ノ者ト共謀シ貨物ヲ竊取
シ海中ニ投棄スト偽ル者日後暴露スルモ重科
ニ處ス其四港中ニ永ク碇泊スル船アラハ其事
故ヲ問ヒ天候ヲ見テ速ニ出帆セシム猶滯留ス

ル者ハ其船ノ貫籍ヲ推亂シ地頭若クハ代官或
ハ勘定奉行ニ上報ス可シ其五貢米ハ船具及ヒ
水主不足ノ船ニ搭載ス可ラス且天候平和ニシ
テ破船スルトキハ船子水主其罪ヲ免レス其六
漂著船漂流物ハ之ヲ收拾シ半年ヲ經過シテ物
主ナキトキハ之ヲ其人ニ給與ス其七博奕其他
輸贏ヲ鬪ハスコトヲ禁ス以上ノ條款ニ違背ス
ル者ハ罪科ニ處スヘシ深川下ノ橋ノ揭示ニ曰
ク其一深川御用材註ニ民有ノ諸材木等流出ス
ルモ大川ニ非ル他ノ内堀ニ在テ之ヲ採拾ス可
ラス御用材ニ論ナク民有ノ材木ト雖モ其請ニ
任セテ返付ス可シ其二大川或ハ海邊ニ流出ス
ル材木ヲ揚ル者ハ浮木ハ三十分ノ一沈木ハ二

十分ノ一ヲ給ス其三深川材木積置所ニ入ル川
 口ニ船ヲ繫キ舟路ヲ妨リ可ラス
 享保四年十二月川船ノ間尺ヲ點檢シ檢印ヲ改
 捺シ武家所有ノ船ニシテ檢印ヲ須ヒサル者ハ
 船數ヲ川船奉行ニ上報セシム其六年三月川船
 奉行ヲシテ檢定セシムルコトヲ廢シ更ニ之ヲ
 棟梁鶴飛驒ニ命シ船稅等ノ徵收ニ論ナク新造
 解船等總テ同人ノ指揮ヲ奉セシム且船ノ新造
 ヲ上報セサルトキハ船工ヲ過料ニ處ス五月船
 稅徵收等ノ規程ヲ定メ且失火ノ每次各橋ニ渡
 船ヲ進致セシム即チ日本橋江戸橋ニ各六艘新
 大橋兩國橋ニ各二十艘但八艘ハ消防ノ用ニ供
 ス淺草御厩河岸竹町渡船場ニ各十艘ト為ス九

勸進及ヒ寺院
 建置禁

月小船ニ乘シテ品川沖ニ至リ諸廻船ヨリ竊ニ
 貨物ヲ買ヒ或ハ廻船ヨリ小船ヲ以テ貨物ヲ他
 船ニ賣與スルヲ禁シ瀬取ノ茶船並湯船水船ノ
 外一切諸廻船ノ近傍ニ漕到スルコトヲ禁ス
 元禄五年農家ノ子弟等修驗ノ徒弟ト為リ或ハ
 勸進比丘尼ヲ以テ妻ト為シ弟子ヲ養ヒ諸方ヲ
 勸進シ僅ニ峯入ヲナシ濫ニ先達ト號レ院號ヲ
 稱スル等ヲ禁シ又山田奉行ニ令シ伊勢神號ヲ
 假リテ諸國ヲ勸進スル者ヲ嚴禁セシム是年七
 月又新ニ寺院ヲ建置スルコトヲ禁シ且菴室等
 ヲ以テ寺院ト為スコトヲ停止ス
 元禄七年九月印鑑ニ依リ同一ノ印ヲ雕刻スル
 コトヲ嚴禁レ圖樣ヲ以テ雕刻ヲ命スルモノア

回印ヲ刻ス禁

女順禮ノ禁

ルモ毫釐ノ差ヒナク彫刺スルコトヲ禁ス
寶永元年七月女順禮多數市中ヲ徘徊シ又念佛
講ノ者僧俗協同シ夜中燈ヲ照レ多數徘徊スル
ヲ禁ス其六年六月又女順禮多數市中ヲ勸化ス
ルヲ以テ之ヲ嚴禁ス

官金高利ノ禁

正徳二年替者總録ニ令シ官金ト稱シテ人ニ貸
與レ禮金ヲ徵レ三四月ヲ限リテ期ト為レ高利
ヲ貸取スルヲ禁シ證書ヲ改注スルハ一年ニ一
度ト為サシメ返償ヲ急ル者アルモ多數ノ座頭
ヲ發シテ之ヲ督責スル等不法ノ所為ヲ戒メ務
テ法廷ヲ煩ハスコト勿ラシメ又官金ノ名義ヲ
以テ商人浪人等ノ金ヲ周旋シ士人ニ貸與スル
コトヲ禁ス

奇怪異説ノ禁

寛保二年奇怪異説ヲ唱ヘ公衆ヲ聚ルコトヲ禁
シ寛政二年四月新ニ神佛ヲ奉祀レ或ハ奇怪ノ
説ヲ唱ルコトヲ禁ス

得遺失物ノ令

享保六年四月金錢其他遺失物ヲ得ル者上報ス
レハ三日間其所ニ揭示シ物主出ルトキハ金錢
ハ折半シテ其一半ヲ物主ニ其一半ヲ拾得者ニ
給シ物品ニ係ルトキハ悉ク之ヲ物主ニ給シ物
主ヨリ拾得者ニ相當ノ謝金ヲ致サシム半年ヲ
經過シ物主ナキトキハ悉ク之ヲ拾得者ニ給ス

人馬曲藝ノ禁

寶曆四年四月人馬ト稱スル曲藝ヲ禁止ス
慶長十四年正月負傷者ヲ隱匿スルコトヲ禁シ
其十六年八月負傷者他ヨリ來ルトキハ其所ニ
留メ速ニ上報セシム元和二年八月負傷者津口

女子並負傷者
等ノ來ルヲ禁ス

暴徒殺戮

ヲ渡ラントスルトキハ之ヲ留メ江戸ニ上報セ
シム寛永八年九月關東各代官ニ令シテ女子姪
ニ負傷者其他不審ノ者ヲ乗船シ他方ニ送致ス
ルコトヲ禁シ強テ乗船ツ乞フ者ハ之ヲ緝捕セ
シム
慶長十七年七月江戸市中ニ「カブキ」ト稱スル暴
徒三百人ヲ戮シ猶嚴ニ其餘黨ヲ搜捕セシム寛
永六年令シテ人ヲ切ル者ハ之ヲ窮追シ其佩刀
ヲ收メ奉行所ニ報セシム若シ佩刀ヲ致サ、ル
者ハ之ヲ殺スヲ妨ケヌ邸宅ノ前ニ在ラ人ノ殺
傷セラレシヲ覺知セサル者ハ守邸者其怠慢ノ
罪ヲ免レス慶安元年二月又令シテ市人ノ濫ニ
長刀ヲ帶シ士人ニ擬スルヲ禁督ス

無罪無宿ヲ免ス

寛永六年二月往キニ捕拿セシ無罪ノ無宿ヲ放
免シ其之ヲ所アキ者ハ非人ノ配下ト為シ午後
無宿者ノ罪ナキ者ハ之ヲ捕縛スルコト勿ラレ
ム

辻番設置

正保二年八月府内各所ニ辻番ヲ設置シ正徳五
年四月辻番ニ令シ晝夜查察ヲ怠ルコトナク夜
中ト雖モ番所ノ戸ヲ開キ守夜セシメ若シ狼籍
者或ハ負傷者等アルニ遇ハハ之ヲ留メ支配役
人ニ報シ其邸ヨリ目付衆ニ報シ指揮ヲ受ケ喧
嘩殺傷等ノトキモ之ニ準ス辻番ノ人員一万石
以上一万九千石ヲ晝三人夜五人二万石以上
ハ晝四人夜六人ト為ス番所ニ人ヲ宿セシムル
コトヲ得ヌ又衣類諸物品ヲ保管スルコトヲ得

市街巡邏

18

ス都ヲ不審ノ者ヲ查察シ往來ノ病者及ヒ醉漢
等歩行スルコト能ハサル者ハ之ヲ其所ニ留メ
快復ヲ待ラ之ヲ放遣ス若シ快復セサルトキハ
支配役人ノ指揮ヲ請ヒ或ハ人ヲ其住所ニ取レ
家人ヲ召ヒ之ニ交付セシム又一万石以下ノ過
番ニ令シ六十歳以上二十歳以下ノ者或ハ病者
等ヲ以テ番人ト為スコトヲ禁シ突捧サスマタ
棒續松早繩挑燈等ヲ準備セシム但創長カヲ禁
ス

安政元年正月江戸市街巡廻ヲ弓鋒先鋒隊ニ命
シ文久三年四月江戸市中取締ヲ五諸侯ニ命レ
其十一月巡邏諸組凡所ヲ置キ無燈夜行ヲ禁ル
十二月關門ヲ武家小路各所ニ設ケ元治元年四

棄兒處分

月江戸市中ニ巡邏ヲ置キ慶應二年正月惡徒ヲ
斬殺スルヲ許ス

復享四年四月棄兒アルトキハ上報ヲ須ヒス之
ヲ其所ニ養育シ或ハ之ヲ請フ者ニ與ハシム元
禄三年十月棄兒ヲ嚴禁シ其養育シ難キ事情ア
ル者ハ其旨ヲ上報セシム其八年十月又之ヲ申
令シ九年九月又令シテ借地借店者子女令曉或
ハ懷孕ニ論ナリ三歳以下ノ者ハ名主地主家主
之ヲ點檢簿録レ若シ其踪跡ヲ失スルトキハ速
ニ之ヲ上報セシム之ヲ隱匿シテ他日發覺スル
トキハ名主以下其責ヲ辭スルヲ得ス享保十九
年又令シテ棄兒ヲ請ヒタル者又ハ之ヲ他人ニ
與フルヲ禁シ其已ムヲ得サル事情アル者ハ上

揭示場設置

願シテ指揮ヲ請ハシム
享保十七年芝口町河岸ニ揭示場ヲ設ケ南ハ品
川ヨリ長峰六間茶屋町ヲ限リ西ハ代々木村上
落合村板橋ヲ限リ北ハ下板橋村王子川尾久川
通ヲ限リ東ハ木下川村川通中川通八郎右衛門
新田村ヲ限リ無宿非人ヲ除クノ外病人倒死人
水死人其他變死人或ハ迷兎等アルトキハ其所
ヨリ上報セシメ年齢衣服等ヲ詳記揭示レ親戚
等ノ捜尋ニ便ス弘化元年三月又之ヲ申令ス
複視ノ法ハ頗ル精密ニシテ其宜シキヲ得ルニ
似タリ就中夫ノ地境ニ跨ル變死人等ヲ處スル
ハ尤モ其理ヲ窮メタリト謂フヘシ今其一斑ヲ
舉レハ都テ複視ノ地ニ至リ先口案驗スヘキ者

複視法

ヲ豫定シ家内人員其他關係人ノ氏名ヲ詳記レ
見分書ヲ作ルニ當リ其氏名ヲ遺スコトナリ又
口供ニ洩ルコト勿ラシメ案驗スヘキ者ノ氏
名ヲ徴シ一々宗門人別帳ニ對照ス負傷ハ尺度
ヲ以テ寸尺ヲ量リ長幾寸深疵若クハ浅疵ト書
シ深サヲ記スルヲ要ヒス負傷者ハ其村ニ託保
シテ療養セシメ加害者ハ手鎖ヲ附レテ同ク託
保ス但負傷重クシテ生命ニ關シ或ハ平癒スル
モ廢人トナルヘキ豫定ノ者ハ加害者ヲ拘レテ
獄ニ下ス被害者言語分明ナラサレハ其旨ヲ見
分書ニ記載シ最初ノ言語ヲ知ル者アルハ親戚
等ヨリ口述セシム可シト雖モ或ハ負傷ニ託レ
故ニ言語ヲ發セズ加害者ノ罪ヲ重クセリト

謀ル者アルヲ以テ此ノ如キハ説論ニテ務テ本
 人ノ口供ヲ徴スルヲ要ス仲裁人アリテ内濟ヲ
 請願セハ輕傷ノ者ハ審問延期ノ上願書ヲ徴シ
 重傷ニシテ筋骨ニ關レ平愈ノ後業務ヲ妨クハ
 シト豫定スル者ハ内濟ヲ許ス可カラサルヲ以
 テ醫師ノ意見ヲ諮ヒ同ク上願書ヲ徴シ加害者
 ノ手鎖ヲ免ス檢使到着以前或ハ檢視中被害者
 負傷ノ為ニ死ニスルトキハ其親戚証ニ村吏ノ
 證書及ヒ醫案ヲ徴シ死體ヲ檢ス其案驗ニキ
 罪犯等已ニ逃走スルトキハ無宿者ハ直ニ逮
 捕シ有宿者ハ其親戚鄰保或ハ村吏ヲシテ日數
 ヲ限リ搜尋セシム期ニ至テ猶之ヲ獲サレハ更
 ニ上報セシム但已ニ託保セシ者ノ逃走セシハ

依
 見
 條

有宿無宿ニ關セズ之ヲ搜尋セシム託保シ若ク
 ハ捕縛セシ者ノ印ハ其親戚等ヲシテ封印セレ
 ムニ由リ口供ハ本人ヲシテ拇印セシム十五
 歳以下ノ男女並ニ無宿乞食ハ無印ノ者トシ下
 男家人等ハ有印ノ者トス出所不明ナル縊死倒
 死人等ハ初ニ發見セシ者ヲ召喚シ順次ニ關係
 者ヲ審問シ村吏等ノ口供ヲ徴シ自殺人ハ自殺
 ニ使用セシ物品ト傷所トヲ檢シ自他殺ノ差別
 ヲ鑑定シテ口供ヲ徴シ又加害者ヲ知ル能ハサ
 ル死傷ハ風聞ヲ知ル些ノ關係モ隱匿スハコト
 勿ラシム其踪跡ヲ知ルトキハ直ニ之ヲ逮捕
 ス出所ヲ知ラサル死體ハ人相年齢着服總身負
 傷ノ有無ヲ檢シ往還ニ揭示シ近傍寺院ニ假埋

シ物品ハ村吏ニ託保ス變死人アリテ加害者ヲ
 知ルコト能ハサルモ苦情ヲ唱ルコトナク死體
 ノ交付ヲ請フトキハ上司ノ指揮ヲ得テ雜物ト
 共ニ交付スルモノト豫定シ調書ヲ作り死體ヲ
 假埋セシム情死ハ之ヲ葬ルコトヲ許サス死體
 ヲ遺棄セシムルモノト雖モ假ニ瘞埋シテ上司
 ノ指揮ヲ請フ且情死ヲ謀リテ成ラズ兩人共ニ
 負傷シテ生存スル者ヲ情死未遂ト定ルトキハ
 其罪遁レ難キヲ以テ酒ニ酖シ某ニ負傷セシム
 シヲ以テ自殺ヲ謀ル等酒狂若クハ口論ニ由ル
 モノニシテ情死ノ意ニ非ル旨ヲ口供セシムル
 ヲ要ス然トモ此ノ如キハ檢使ノ意ニ出ツ可ラ
 サルヲ以テ罪犯ヨリ供申セシムルノ手段アル

ヘシ但別ニ支障アル者ハ此限ニ在ラズ賣女ハ
 年季證書ニ變死或ハ病死ノ際主人ノ意ニ任ス
 可キノ文アルヲ以テ賣女ニ關スルコトハ年季
 證書ノ謄本ヲ徴シ親戚證人等遠地ニ在ル者ハ
 之ヲ推糺スルヲ須ヒス但其所ニ在リテ故障ヲ
 唱ヘ其事抛擲ス可ラサル者ハ便宜處分ニ倒死
 人ノ所有品中米麥等ヲ袋ニシ其他非人乞食ト
 断定スヘキ者ハ掲示ヲ須ヒス縊死溺死等ハ初
 ノニ其原形ヲ檢シ然ル後死體ヲ下レ或ハ陸上
 ニ致シテ子細ニ之ヲ檢シ總テ自他ノ差別ヲ鑑
 定スルヲ要ス倒死ト遺棄ノ死體トノ區別必分
 明ナルヘレ村境ニ跨ル死體三分七分ニ跨ルト
 雖モ面ヲ仰ニシテ倒レレ者ハ頭アルノ地之ヲ

牛ヲ殺シ及ヒ死
牛ヲ賣ルヲ禁ス

玉川上水成ル

擔保シ面ヲ俯シテ伏スル者ハ足アルノ地之ヲ
擔保ス即チ步行シ來ル地ニ在テ死ヲ遂ルカ為
メナリ蓋シ身體後ニ倒ル、トキハ足前ニ出テ
前ニ倒ル、トキハ頭前ニ出ルニ由ル以上檢視
官須知ノ梗概ナリ
慶長十六年八月牛ヲ殺スコトヲ禁シ又死牛ヲ
賣ルコトヲ禁ス
兼應三年六月玉川上水成ル初メ農夫庄右衛門
清右衛門ノ二人水道ヲ測量シ高低ヲ定ム因テ
所奉行神尾元勝ニ命シテ之ヲ督シ之ヲ府内ニ
導カシメ虎ノ門外ニ至ル乃チ二人ノ功ヲ賞シ
姓ヲ玉川ト賜ヒ祿ニ百石ヲ金給シ上水役ヲ命
ス工ヲ起スノ初金七千五百兩ヲ賜ヒ加ルニ私

河岸地ノ制

芥棄場設置

鮮魚擬造ノ禁

藥品ノ禁令

賞三千兩ヲ以テス元文四年八月此二人共ニ罪
アリテ職ヲ免ス又神田上水ハ玉川上水ノ前ニ
アレトモ創始年月詳カナラス
明曆元年十一月塵芥ヲ川中ニ投棄スルヲ禁レ
永代島ニ運セシム又河岸地ヲ埋築レ土地ヲ廣
ムルコトヲ禁ス
寛文元年五月城壕竝ニ溝渠等ニ塵芥或ハ鳥獸
ノ死屍ヲ投棄スルコトヲ禁ス其五年五月市中
ニ芥棄場ヲ設ケ其他ニ棄ルコトヲ禁ス
寛文五年八月鯉魚日ヲ經ル者ヲ鮮魚ニ擬造レ
販賣スルコトヲ禁止ス
寛文六年九月江戸市中藥種高ニ令レ藥種ノ何
品タルニ論ナク私ニ之ヲ一所ニ買收シ其直ヲ

野菜果實季節

膳責セシメ或ハ質造樂ヲ販賣スルコトヲ嚴禁ス
負享三年五月野菜果實等販賣ノ季節ヲ定メ生
推尊ハ正月節ヨリ四月ニ至リ防風ハ二月節ヨ
リシ筆頭菜蕨芽蓼生姜根芋ハ三月節ヨリシ竹
筍茄子越瓜枇杷ハ五月節ヨリシ甜瓜豇豆ハ六
月節ヨリシ來檮ハ七月節ヨリシ梨實ハ八月節
ヨリシ蒲萄ハ八月節ヨリ十一月節ニ至リ御所
祈ハ九月節ヨリ十一月節ニ至リ柑類ハ九月節
ヨリ明年三月ニ至ルヲ以テ季節ト為ス
享保七年小石川養生所ヲ設置シ貧困ノ病者ヲ
シテ此ニ治療セシム
慶長十四年正月門立或ハ面ヲ包ミ面ヲ蔽フコ

石川養生所設置

門立或禁

人身賣買禁

トヲ嚴禁シ元和二年十月門立及ヒ面ヲ包
ムコトヲ申禁シ寛永四年正月又之ヲ嚴令ス
元和二年十月人身賣買ヲ嚴禁シ之ヲ高札ニ掲
示シ其五年十二月又令シテ人ヲ略賣スル者ハ
死ニ處シ其略賣セラレシ者ハ本主ニ給シ主ナ
キ者ハ其自由ニ任ス寛永二年八月更ニ人身賣
買ノ禁ヲ申令シ男女ヲ役使スル年季十年ニ過
ルコトヲ得サラシム其四年正月延寶二年二月
又之ヲ申令シ天和二年五月又之ヲ高札ニ掲示
ス

遊廓制

元和四年遊廓ヲ葺屋町ノ下ニ設ケ吉原ト名ツ
ク初メ慶長ノ頃娼家各所ニ散在シ麹町八丁目
鎌倉河岸及ヒ大橋ノ内柳町今ノ道ニ等ニ十四

五戸或ハ二十戸アルヲ最トス慶長十年江戸城
ヲ築クニ當リ柳町ノ地官有ニ歸スルヲ以テ娼
家迄ク元誓願寺前ニ移ル是時ニ當テ江戸市中
日ニ繁盛ニ赴クヲ以テ遊廓ノ設置ヲ請願スル
者アルモ未タ聽容ヲ得ス時ニ庄司甚右衛門ナ
ル者娼家ノ市中ニ散在スル不利益ヲ述ヘ三項
ノ旨趣ヲ以テ新ニ遊廓ヲ一所ニ撰定セレコト
ヲ請フ曰ク遊興ニ耽ル者數日留連レ金錢ヲ浪
費スルモ娼家ハ務ヲ游客ノ意ヲ迎ヘ其金ヲ貪
取ス是ヲ以テ少壯ノ輩終ニ不良ノ行為アルニ
至ル故、今後規約ヲ定メ一日一夜ノ外客ヲ留
ルコトヲ禁ヒレ曰ク人身ヲ略賣スルハ從來ノ
制禁ナルニ關セス今猶略賣ニ異ナラサル者往

々之アリ即チ貧困ノ女子ヲ得テ養女ト為シ成
長ノ後他人ノ妾ト為レ其又母死スルトキハ之
ヲ娼坡ト為レ娼家モ亦其情ヲ知テ之ヲ蓄ル者
アリ尤モ不肅ニ屬ス因テ今後は等ノ類アルト
キハ嚴ニ之ヲ檢覈レ速ニ密告セン曰ク匪徒ノ
出没スル者住所ヲ定メズ多クハ娼ニ宿スルモ
從來娼家多ク金ヲ得ルトキハ暗ニ之ヲ知ルモ
却テ之ヲ隱匿ス今後游客中不審ノ者アルトキ
ハ竊ニ其身分ヲ探リ之ヲ密告セレ是ニ於テ其
請ヲ允レ葺屋町ノ下ニ方二町ノ地ヲ與フ其地
葺葺ノ叢生セシヲ以テ初メ葺原ト呼ビレモ後
葺ヲ改メテ吉ニ作ル後明曆二年ニ至リ更ニ之
ヲ淺草寺ノ後日本堤ノ下ニ移シ晝夜營業ヲ許

邸宅ノ制

シノ從來畫間ノ為ニ市中ニ在ル風呂屋二百餘戸ヲ
 廢ス蓋シ風呂屋ニ密賣女ヲ置キ游郭ノ營業ヲ
 害スルヲ以テナリ元禄七年十一月大門ニ高札
 ヲ建テ醫師ノ外乘駕乘輿ヲ禁ニ鎗長刀ヲ門内
 ニ入ル、ヲ禁ス
 元和五年五月武家邸地ニ商賣並ニ浪士ヲ居住
 セシムルコトヲ禁レ之ニ背戾スル者ハ其邸地
 ヲ沒收ス寛永二十年三月一万石以下家作ノ制
 ヲ定メ又武家邸地各下水ノ溝ヲ疏浚セシム寛
 文七年十月空地ニ家ヲ造出スルコトヲ禁レ其
 八年二月三千石以下士人ノ家宅ニ長押杉戸張
 付雕物組物ヲ用ヒ柱ニ獅形等ヲ禁レ床縁糊襖
 障子ニ漆ヲ用ヒ若クハ華美ナル材木ヲ以テ拭

板ト為レ或ハ椶ヲ以テ門ヲ作ル等ヲ停止シ又
 寺院ノ堂舎客殿方丈庫裡等構造ノ制限ヲ令ス
 元禄九年八月諸侯以下本所ニ邸地ヲ賜ヒ概子
 其歩數ヲ定ム即チ十五万石以下十万石ニ至ル
 マテ七千歩九万石以下七万石ニ至ルマテ六千
 五百歩五万石以下四万九千石ニ至ルマテ五千
 歩其以下三万石ニ至ルマテ三千五百歩二万九
 千石以下一万石ニ至ルマテ二千七百歩九千石
 以下八千石ニ至ルマテ二千三百歩七千石以下
 五千石ニ至ルマテ千八百歩四千石以下三千石
 ニ至ルマテ千五百歩二千石以下千石ニ至ルマ
 テ千歩九百石以下三百石ニ至ルマテ五百歩ト
 為ス其地西ハ大川ヲ限リ東ハ中川ヲ限リ南ハ

異様ノ風俗ヲ禁ス

密賣法ノ禁

永代新田海濱ヲ限り北ハ綾瀬ヲ限ル
 元和九年四月異様ノ風俗即チ大額大撫付大剃
 下下鬚ヲ装ヒ並ニ大刀長脇指若クハ朱鞘ノ刀
 劔ヲ帶レ又刀劔ニ大角鐔等ヲ用ウルコトヲ禁
 レ之ヲ犯ス者ハ禁獄ニ處シ其主人ハ過料ニ處
 ス正保二年七月向キニ禁スル刀劔ノ寸尺ニ違
 犯レ風俗ヲ紊ル者ハ速ニ誅殺セシム而シテ更
 ニ刀劔ノ寸尺ヲ定メ刀ハ二尺八寸脇指ハ一尺
 八寸ニ過ルコトヲ得ヌ明曆三年七月更ニ異様
 ノ風俗ヲ為スヲ申禁ス享保八年十一月非人髮
 ヲ結フ者アルヲ以テ舊ノ如ク斬髮セシメ且頭
 巾等ヲ冠スルヲ禁ス
 慶安二年九月市中密賣法ヲ嚴禁シ兼應二年七

月之ヲ申令シ明曆三年六月風呂屋ニ遊女ヲ置
 クコトヲ禁シ寛文四年五月茶肆酒肆等ニ隱賣
 女ヲ置クコトヲ禁シ其十月吉原ノ外市中ニ賣
 女ヲ置ク可ラサルヲ申令セシモ其弊猶止マサ
 ルヲ以テ延寶五年六月更ニ令シテ其之ヲ隱匿
 スル者ハ各主家主五人組ニ至ルマテ之ヲ處罰
 スルノ旨ヲ知會セシム其六年十一月又令シテ
 新ニ飲食店ヲ設ルコトヲ禁シ從來ノ飲食店ト
 雖モ婢二人ニ過ルコトヲ得ヌ其他家内ノ女子
 アルモ客席ニ出ルヲ許サス且從來婢ヲ用ヒサ
 ル者ハ今後之ヲ用ル勿ラシメ營業時間ハ日出
 ヲリ日没ヲ限リ日没後客ヲ留ルコトヲ得ヌ天
 和二年八月更ニ之ヲ申令シ爾來屢禁令スル所

劇場ノ制

アリ而シテ隱賣女ハ若干ノ過料ヲ徴シ更ニ百
 日間ノ手鎖ニ處シ猶吉原ニ下シテ三年間遊女
 ト為リ其地主名主等ヲ罰スル各差アリ
 兼應元年六月堺町歌舞伎少年等ノ前髪ヲ剃去
 セシム蓋シ士人ノ男色ニ耽リ此輩ヲ寵スル者
 アルニ由ル其二年五月又衆道ヲ以テ人ニ迫ル
 者アテハ速ニ申訴セシム正徳四年三月町奉行
 ニ令シテ劇場ノ制ヲ定メ棧敷ハ二階ニ過ルコ
 トナク又棧敷・障屏ヲ設ルコトナク且棧敷ヨ
 リ間道ヲ作り樂屋或ハ坐元ノ居宅及ヒ茶屋等
 ニ到リ遊興ヲ為スコトヲ禁シ又日没後點燈演
 劇スルコトヲ許サス又俳優輩客ノ招キニ應シ
 茶屋ニ至リ或ハ自宅・客ヲ招ク等ノコト勿ラ

シト又寺社境内ニ演劇説經其他諸藝ヲ演スル
 コトヲ禁ス蓋シ劇場ナル者其初ハ最モ鄙野ニ
 レテ演藝ノ場ノニ僅ニ板屋ト為シ四方ハ竹柵
 ヲ設ケ庭ヲ以テ其内部ヲ蔽ヒ棧敷等ノ設ケナ
 ク一齣ヲ限リテ觀客ヲ交代セシメレモ正保以
 降柵ヲ發シテ堀ト為シ舞臺ニハ四本ノ柱ヲ建
 テ左ニ橋掛ヲ設ケ背後ニ幕ヲ張りタリ延寶以
 後益華飾ヲ加ヘ引幕ヲ作り橋掛リヲ花道ニ改
 メ左右註ニ正面ニ高床ヲ設ケ之ヲ棧敷ト曰ヒ
 其背ニ屏風ヲ樹立シ前面ニ簾ヲ垂レテ外見ヲ
 防キ櫓ニ幕ヲ張り早朝ヨリ櫓上ニ鼓ヲ鳴ラシ
 テ觀客ヲ招ク貞享元年鼓聲ノ城中ノ太鼓ニ類
 スルヲ以テ之ヲ禁停ス正徳年間幕府ノ仕女江

諸興行場ノ制

風俗ニ関スル禁令

島ナル者俳優ト通シ不肅ノ事アルヲ以テ上文ノ制アリ是ヨリノ後劇場ノ體裁一變レ復昔日ノ如ク蓬ヲ以テ外部ヲ蔽フニ至ル享保年間改メテ瓦屋ト為レ板塀ヲ壁ト為レ棧敷其他客席等ノ區畫ヲ定メ又許多ノ變更アリ其後元文二年寛政三年文化六年天保十三年等數次ノ變更アリト云フ

寛文元年辻鞠辻相撲辻立及ヒ露店ヲ出スコトヲ禁ス其十二月諸觀物演劇等ヲ興行スルハ塚町葺屋町木挽町五丁目六町目ニ限り其他ニ興行スルヲ禁シ又市中ニ勸進相撲ヲ催スコトヲ禁ス

貞享元年十一月風俗ヲ紊亂スル童謡等ヲ流行

セシムルニ論ナク奇事珍聞等ヲ板行スルヲ禁シ其二年七月市中ニ踏舞スルコトヲ禁シ元禄二年五月市中ニ舞妓ヲ養成シ士人ノ招キニ應スルヲ禁シ其七年及八年又俳優少童女子等寺院ノ招キニ應スルコトヲ嚴禁シ寶永三年三月歌舞ノ師トナリ舞伎ヲ教習スルコトヲ禁ス文化文政ノ際ニ至リ市中藝妓ノ數多ク隨テ賣淫ノ弊甚タシク從來ハ一家一人ニ限りシモ一戸ニ數人ノ藝妓ヲ養フ因テ文政七年二月嚴ニ令シテ藝妓ヲ養成シ或ハ數妓ヲ蓄ルコトヲ禁シ其家貧困ニシテ父兄ノ為メニ伎藝ヲ鬻ク者ハ一戸一人ヲ限ラシム嘉永元年八月又之ヲ申令セリ

博奕ノ禁

博奕ノ禁ハ屢令スル所ニシテ枚擧ニ違アラヌ
 今其少ク異ナル者ヲ擧レハ元禄五年富突講或
 ハ百人講ト稱レ博奕ニ類スル所業アルヲ以テ
 之ヲ嚴禁レ其十五年二月誹諧點者ノ冠付ニ稱
 レ句ヲ聚メ人ヲ會レテ褒賞ヲ付與スルハ博奕
 ニ類スルヲ以テ之ヲ禁レ是年閏八月博奕改メ
 職ヲ置キ寶永元年正月又富突ヲ申禁ス正徳五
 年九月三笠附ト稱スルコト諸國ニ流行スルヲ
 以テ嚴ニ之ヲ禁止セリ三笠附ハ一ヨリニ
 已レノ好ム數三箇ヲ書レ一之ヲ密封シ共ニ
 點者ハ交付ス點者ハ二ノ一ヲ密封シ共ニ
 ノ數ヲ指點シ而シテ各一人ノ封書ニ箇共
 二其換ニ勝ト稱ス初メ一箇ニ文ヲ得ニ勝
 ル者ヲ二勝ト稱ス初メ一箇ニ文ヲ得ニ勝
 付シ者ニ勝ト稱ス初メ一箇ニ文ヲ得ニ勝
 ハ銀百文ノ符ハ法ト稱ス其享保十六年十月取

秤ノ制

退無盡ヲ停止ス而シテ博奕ノ罰タル三笠附ヲ
 以テ最モ重シト為ス其點者金元茲窩主ハ遠島
 句拾ヒハ家財ヲ没收シ非人ニ下ス其之ニ關ス
 ル者ハ家財居宅ヲ没收スルニ過スル過料ニ處
 シ點者金元等ヲ告訴スル者ハ銀二十枚ヲ賞與
 ス取退無盡ノ頭取茲窩主ハ家財ヲ没收シ非人
 ニ下シ其周旋ヲ為セシ者ハ家財ヲ没收シ江戸
 拂テ命ス三笠附其他博奕ノ罪犯ニ關スル家主
 地主罰各差アリ
 元文五年六月小傳馬町馬喰町等旅店ノ外茶店
 餽饒店等猥々旅人ヲ止宿セシムルヲ嚴禁ス
 兼應二年閏六月守隨及ヒ善四郎ノ兩人ニ秤座
 ノ命レ東三十三箇國ハ守隨秤西三十三箇國ハ

職工、肝煎

日用座

善四郎秤ヲ用ヒシメ兩人ヲシテ從來ノ秤ヲ復
 査シ其合ハサル者ハ之ヲ收メ其合フ者ハ檢印
 セシメ秤一挺コトニ印賃一分ヲ呈出セシム
 元禄十二年正月府下職工ノ肝煎ヲ定メ大工方
 木挽方塗師方飾方鍛冶方疊方壁方屋根方桶方
 尾方石切方張付方ノ諸職工ヲ統轄セシム
 兼應二年九月日雇人ヲシテ日用座ニ就キ鑑札
 ヲ請受セシム日雇人ヲ止宿セシムル者ハ無鑑
 札ノ者ヲ宿セシムルコトヲ得ス萬人足モ亦同
 シ延寶七年七月又之ヲ申令シ無鑑札ノ者ハ捕
 縛シテ兩番所ニ進致セシメ諸日雇人ノ賃錢ハ
 定額ノ外増加スルヲ許サス元禄八年十一月通
 油町茂兵衛大傳馬町二丁目太郎兵衛三十間堀

振賣ノ制

七丁目五郎兵衛左左衛門ノ四名ニ日用座ヲ命
 じ日雇稼業ノ者ハ皆之ヲ就キ鑑札ヲ請受セシ
 ム寛政九年ニ至リ之ヲ廢ス
 明曆四年二月振賣ノ制ヲ定メ小間物賣絹賣油
 賣木綿賣布賣蚊帳賣紙帳賣小刀賣紙賣煎茶賣
 きれ賣なめし袋ノ柄袋賣木綿皮足袋賣絹糸賣
 木綿ほり糸賣麻賣瀬戶物賣蓆賣ノ人員ヲ録
 上セシム萬治三年ノ令ニ香具賣精進ノ乳物賣
 南蠻菓子賣編笠賣黍米賣傘賣蓆賣雪踏賣鍋賣
 薪賣櫻招帚賣物ノ本賣鏗節賣串海鼠賣串蛇賣
 鏗ノ塩引賣古著買髮結者賣草雙紙賣烟草賣時
 々ノなり毛の菓子賣塩賣飴ふんし賣下駄足駄
 賣味噌賣酢醬油賣豆腐賣藥賣ふろてん賣餅

奉公人請人制

賣籠花賣燈心賣附木賣ヲ許可シ或ハ札錢ヲ徵スル者アリ或ハ年ノ老幼ニ由リ之ヲ免スル者アリ而シテ香具師ニ十三ノ種類アリ即チ諸製藥居付賣弘所入齒師口中療治居令拔愛敬賣藥獨樂廻レ過醫師膏藥賣諸國妙藥取次藥齒磨紅白粉月限賣藥療治師樂飽藥菓子縁日出商人藥又火口賣往來觸賣諸見世物茲覗カラクリ愛敬見世是ナリ然トモ札錢徵收ノ事ハ暫クニシテ止ムト云フ

寛文五年十月奉公人ノ請人ト為ル者確實ナル人主若クハ請人ヨリ證書ヲ徵セス或ハ逃亡人等ヲ留メ之ヲシテ奉公セシムルヲ禁レ寶永七年八月奉公人諸宿ノ制ヲ定メ給金ヲ豫借シテ

古金古銅鐵取締

其人ヲ致サス或ハ奉公四五日ニシテ逃亡シ或ハ主家ノ物品ヲ竊ミ去ルモ亦之ヲシテ他ニ奉公セシムルノ類アルヲ以テ請宿ノ組合ヲ定メ奉公人逃亡スルトキハ給金若クハ代人ヲ以テ之ヲ償ヒ竊取セシ物品アルトキハ代金ヲ算レ七日以内ニ主人ニ還付シ本人ハ奉行所ニ進致セシム請宿ノ不良ナル者アレハ組合ノ信用ヲ害スルヲ以テ協議シテ其業ヲ禁レ若シ之ヲ肯レセサルトキハ奉行所ニ告訴セシム親戚或ハ知音ノ故ヲ以テ一人二人ノ證人ト為ル者ハ請宿ノ限ニ在ラス又請宿タル者多ク金錢ヲ貸リ奉公人ヲ窘ムコトヲ禁ス

寛文七年九月古金古銅鐵ノ類ヲ賣買スルヲ禁

探偵ノ始

シ社殿橋梁或ハ諸門戸ニ用ル銅鐵具其他銅瓦
 等ヲ賣買スルコト勿ラシム其武家若クハ寺社
 ヲ買收セシム其密ニ之ヲ賣買スル者ハ罪ニ處
 ス寶永五年三月又令シテ金地金ノ類ハ必ス金
 座、賣與セシム享保八年五月質屋古着屋古著
 買古道具屋唐物屋小道具屋古錢屋古鐵買等ノ
 組合ヲ定メ贓物ノ發見ニ便ス
 初メ徳川家康ノ霸府ヲ江戸ニ開クヤ盜賊ノ多
 キヲ慮ヒ其渠魁爲澤某ヲ捕ハ之ヲ獄ニ下スコ
 ト數月後諭ス、死罪ヲ宥スヲ以テ今後諸國ノ
 賊徒ヲ防キ管内ニ入ラシメス以テ其罪ヲ償ハ
 シム爲澤謹テ命ノ辱キヲ拜シ請フニ一區ノ地

質屋總代

ヲ賜ハリ配下ノ草賊ヲ集メ之ヲシテ曰ニ府下
 ヲ巡行シ古衣古金等ヲ買收セシメ一ハ以テ正
 業ニ就キ一ハ以テ匪徒ヲ探偵セレコトヲ以テ
 ス乃々之ヲ免ニ與ルニ一方一町ノ地ヲ以テス爲
 澤町即チ是ナリ後爲ヲ改メ是ヨリノ後盜賊一
 時其跡ヲ絶ト云フ元禄十四年十二月富澤町
 名主彦左衛門、古着總代ヲ命ニ古著高ニ鑑札
 ヲ付與シ贓物等ヲ搜索スルニ當リ總代ヨリ尋
 問スレハ速ニ之ニ應セシム
 元禄五年質屋總代ヲ定メ質屋營業者ハ會所ニ
 至リ看板ヲ請受シ質物中不審ノモノハ必ス總
 代ニ通報セシム其十一年正月質屋ノ制ヲ定メ
 質屋ニシテ不審ノ品物ヲ隱匿シ或ハ竊ニ其物

番紙店組 三番紙店組 新堀組 住吉組 水油仕入方
 樂種砂糖問屋 糠問屋 瀨戶物問屋 乾物問屋 堀留
 組ノ十二種ヲ加ヘ 二十二組ノ問屋ト為ル然ト
 一猶十組問屋ノ舊稱ヲ繁用セリ 而シテ河岸組
 一綿問屋 鐵店組 釘鐵銅物類問屋 二番紙店組
 一紙燐燭問屋 三番紙店組 一紙燐燭荒物問屋 新
 堀組 一紙荒物問屋 住吉組 一下り燐燭荒物問屋
 堀留組 一疊表荒物問屋 ト為ス 其他當時問屋
 非モモト雖モ往々組合ヲ設ケ 亦十組問屋
 準據シテ 一種ノ株式ヲ為ス者多シ 其種目ヲ舉
 レ 一吳服問屋 水油仲買下り 鏗節塩干肴問屋 藍
 玉問屋 干鰯魚締粕魚問屋 下り塩問屋 同仲買燐
 問屋 大坂葎疋袋商人下り 米問屋 關東米穀三組

問屋 地廻リ 米問屋 雜穀為登組 河岸八丁米仲買
 脇店米店 番米屋 大道番板材木 熊野問屋 組合竹
 木川造一番組 古問屋 本場材木問屋 川邊竹木炭
 薪問屋 材木仲買 兩替屋 水鳥問屋 岡鳥問屋 漆問
 屋 紫根問屋 地廻水油問屋 地廻醬油問屋 味噌問
 屋 魚油問屋 瀨殼灰 竈持石 及問屋 書物問屋 繪草
 紙問屋 紙煙草入問屋 團扇問屋 曆問屋 硫黃問屋
 花松問屋 肴問屋 塩干魚問屋 石問屋 地塩問屋 地
 掛燐燭燈心屋 真綿問屋 靛靛杜氏宿炭薪仲買石
 工見世持地 漉紙仲買札 差定飛脚問屋 六組飛脚
 屋 廻船問屋 番組人宿 辻番請負人 馬喰町十傳馬
 町旅人宿 八十二軒組 百姓宿 三十軒組 百姓宿 鬢
 結御堀浮芥定 後請負人 八品高賣人ノ諸種ト為

ス然トモ當時未ク株式ニ對スル納税ノ義務ア
ラス然ルニ文政年間ニ至リ彼ノ十組問屋等相
謀リテ若干ノ金額ヲ官廳ニ納致レ以テ廻船ノ
特權ヲ掌握セントスルノ計畫アリ遂ニ府下三
大橋ノ修繕改築ヲ負擔レ以テ官恩ニ酬ヒレコ
トヲ請願シ其許可スル所ト為リ三橋會所ヲ設
ケテ其事務ヲ掌ル爾後問屋五十九組ハ更ニ國
恩ニ報スル趣意ヲ以テ毎歲八千五百五十兩ヲ上
納セントコトヲ上願シ始メテ問屋免許鑑札ヲ受
ケ文化七年ニ至リテ十組積仲間附屬十四組ヨ
リ毎歲二千五百兩ヲ上納セレコトヲ上願シ同
ク允許ヲ得タリ是ニ於テ株式商ノ納税ハ前後
合セテ一萬二百兩ノ多キニ及ヒタリ即チ夫ノ

莫加金ト稱セレモノニシテ各商業ニ依リ其額
差異アリト雖モ少キ者金十兩ニ下ラス多キ者
千兩以上ニ至ル然トモ猶未ク官令ヲ以テ人員
ヲ定メ之カ藩域ヲ建ルニ至ラス新ニ其組合ニ
入ラントスル者ハ協議シテ加入スルコトヲ得
亦問屋ニ非ル商人ト雖モ各產地ニ就キ直々ニ
貨物ヲ買收スルコトヲ得シカ故ニ諸問屋ノ特
權ハ未ク純然タル株式ニ非ルカ如シ文化十年
始メテ諸問屋ノ數ヲ千九百九十五人ニ限定シ
之ニ鑑札ヲ交付シテ株式ノ證トシ其他新々ニ
營業セントスル者アルモ問屋タルコトヲ得ス
又問屋以外ノ者ハ產地ニ就キ直々ニ貨物ヲ買
收スルコトヲ得サルノ制ヲ設ケ株式ノ制全ク

關津ノ禁

備ハレリ是ヨリノ後問屋ノ特權ハ殆ント其極ニ達シ物價ノ高低ハ概テ此輩ノ左右スル所ト為リ小賣商賈ノ困難言フ可ラサルモノアリ故ニ天保十二年ニ至リ閻老水野越前守度政ヲ鑿草シ諸株式ヲ全廢ス其後弘化三年七月ニ至リ株式再興ノ議興リ嘉永四年三月令シテ諸問屋株式ヲ文化以前ノ舊ニ復ス然トモ復實加金ヲ徵收スルコトナレト云フ享保十年七月無判ノ斗量ヲ用ルコトヲ申禁ス慶長十四年八月二十八日各諸侯ノ有スル石積以上ノ軍船ヲ收メ爾後大船ヲ造ルコトヲ禁ス

無判斗量ノ禁
大船ノ禁

關津ノ禁

曰ク既橋曰ク五料曰ク一木一曰ク葛和田曰ク河俟曰ク古河曰ク房川渡曰ク栗橋曰ク七里濱曰ク關宿ノ内大船渡境曰ク府川曰ク神崎曰ク小見川曰ク松戸曰ク市川而シテ其他ヨリ濫ニ渡船スルヲ禁レ婦女或ハ負傷者其他不審ノ者ヲ通スルコトヲ得ス但江戸ニ赴ク者ハ之ヲ檢セス寛永二年八月關津ヲ通行スル者ハ笠或ハ頭巾ヲ脱セシメ乘輿ノ者ハ戸ヲ開キ婦女ハ婦人ヲレテ之ヲ檢セシム公家門跡及ヒ諸侯等豫メ通行ヲ報スル者ハ檢勘ヲ要セス但不審ノ者アルトキハ此限ニ在ラスト為ス

大川架橋

元和二年神田川ヲ鑿リテ大川ニ通シ萬治二年西國橋ヲ架レ元祿六年新大橋ヲ架シ其十一年

永代橋ヲ架ス

永應二年六月市中商店ノ賣物ヲ軒外ニ出レ通行ヲ妨ルコトヲ禁レ之ヲ犯ス者ハ其店ヲ閉シ家主五人組ヲ併セラ之ヲ罰ス

明曆元年三月芝口ハ札ノ过以内浅草ハ駒形堂及ヒ麹町赤坂門内ニ在テ馬夫ノ馱馬ニ乗ルコトヲ禁シ寛文中屢之ヲ申令セリ

明曆九年三月橋上ニ半馬ヲ置クコトヲ禁シ元禄三年牛車大八車共ニ宰領ヲ附セシム其十三年更ニ車ニ極印ヲ受ケシメ出銀ヲ徴ス其十六年十二月大八車ノ出銀ヲ免ス

明曆三年三月市中地形ヲ築クニ雙方高下ナカ

ラシメ道路ノ地面ハ隣町ニ接續ニ易カラシメ特リ已レノ便宜ニ任スコトナカラシム

萬治元年五月河岸地ニ葺屋廁圍等ヲ作ルヲ禁レ揚陸場ヲ塞キ或ハ橋際ニ高人ヲ置クコト勿ラレノ竹木等ヲ積ムコト高サ一間ニ過ルコトヲ得ス

寛文五年二月品川千住板橋高井戸以内ニ在テ

兵ニ駕籠ニ乗ルコトヲ禁シ天和元年七月駕籠ニ乗ルノ制ヲ定メ元禄十三年貸駕籠ニ極印ヲ請ケレメ出銀ヲ徴ス而シテ十五年閏八月老人病者若クハ婦人小兒ニ非レハ駕籠ヲ用ルコトヲ許サス十六年十二月出銀ヲ免シ正徳十年又过駕籠ニ戸ヲ建ルコトヲ禁ス

渡津高札

元禄十一年七月永代橋ニ高札ヲ揭示シ橋上往還ノ輩晝夜ニ限ラス休憩スルコトヲ禁シ失火ノ際諸器賤ヲ運搬スルハ支障ナク但諸車ヲ通スルヲ許サス又橋上ヨリ通船ニ石ヲ抛ツコトヲ禁ス

正徳三年八月浅草御厩河岸本所石原所浅草竹町本所中ノ郷ノ渡津ニ高札ヲ掲ケ一人馬一匹各鳥目一文ヲ以テ渡船賃ト定メ武士ハ一切渡船賃ヲ請求スルコトヲ得ス武士ノ從僕ト雖モ主人ニ隨從セス無刀ノ者ハ渡船賃ヲ請求セシメ失火大水等總ニ衆人通行ヲ要スルトキハ渡船ヲ増發シ往還ニ支障ナカラシメ番人船頭等往還ノ人ニ對シ無禮過言等アルヲ許サス寛

江市中課後制

保二年九月又一船ニ十人以上ヲ載ス可ラサルコトヲ揭示ス

江戸市中ノ課役ニ於ケル運上或ハ買加ト稱シ徵收セシモノ多シ船税ノ如キハ其起源尤モ舊シト云フ而シテ其課税ノ法ハ船ノ大小ニ從テ四等ノ烙印ヲ捺シ以テ之ヲ分ツ字字印長錢百文字字印長錢五十文字字印長錢三十文字字印長錢二十文文ヨリ至ル百文字印長錢十文文ヨリ至ル五十文字印長錢五文文ヨリ至ル二十文字印長錢二文文ヨリ至ル十文字印長錢一文全字印長錢十文是ナリ外ニ言字印アリ免稅ノ船ニ捺ス又本税ニ附帶シテ徵收スル後錢アリ古ハ長錢一貫文ニ銀三十一匁ヲ乘セシカ後漸ク増加シ幕府ノ末ニ至テ八十九匁五分一厘トナル其初メ船主ノ直納ニ非ス總代二十一人アリテ之ヲ徵收上納セシニ自ツカ

ラ急納ノ者アリテ一時金庫ヨリ請借セシモ遂
 年ニ急納多クシテ遂ニ之ヲ償還スルコト能ハ
 ス寶永三年ヨリ享保五年ニ至ル十五年ノ間ニ
 凡五万千六百九十二兩餘ノ負債ヲ生セシカハ
 川奉行ニ生シテ罪ヲ得作事方棟梁鶴飛驒代リ
 テ川船改役ト為リ積年ノ流弊ヲ改正シ又後錢
 ヲ増加シテ六十八匁八分五厘ト為シ以テ前奉
 行負債ノ補償ニ充ツ寶曆四年ニ至テ終ニ五万
 餘兩ヲ償完シ更ニ金三万九千五百餘兩錢九万
 七千八百餘貫文ヲ上納セシニ由リ其翌年ヨリ
 毎歲納額四千餘兩ト定メラル鶴氏此ノ如キノ
 功アリレヲ以テ子孫其職ヲ世襲セシニ天明六
 年八月故アリテ其職ヲ停メラレ爾後改役其時

々交替セリ慶應四年二月改役ヲ廢シテ其事務
 ヲ廻漕掛ニ任セシカ是年四月總督府ニ收メテ
 ル當時ノ計査ニ慶應三年ノ江戸船改高ハ船數
 千四百八十四艘年貢長錢千四百七十四貫九百
 文又江戸廻リ各船改高ハ船數二万千二百八十
 一艘年貢長錢八千四百四十五貫四百文ナリ又
 廻船ニ役錢ヲ課シタルハ寶永四年、品川湊筋
 ノ疏浚アリシトキ諸廻船ノ石數ニ應シテ之ヲ
 徴收シ以テ其經費ニ充テシカ僅カニ四年ニシ
 テ之ヲ廢セリ
 振賣札ヲ給シテ札錢ヲ徴收セシハ萬治二年ニ
 始マレトモ暫時ニシテ之ヲ廢セリ
 日雇ノ者ニ札ヲ給シテ役錢ヲ課セシハ寛文五

年日雇座ヲ置クニ始マリ日雇營業ノ者ヨリ毎
 月錢二十四文ヲ徵收シ安永中ハ毎月金百兩ヲ
 上納スルノ定メナリシカ後ニ七十五兩ニ減シ
 寛政九年ニ至ラ之ヲ全廢セリ
 銀座ノ運上ハ寛文五年ニ定メ毎年銀一万枚ト
 シ朱座運上不詳代ハ毎年銀一千枚ノ定メナリシ
 カ後ニ七百枚ニ減セリ箔座ハ元禄九年ニ設ケ
 箔打營業ノ者ニ運上ヲ課セシカ寛永六年ニ至
 テ之ヲ廢セリ
 造酒運上ハ元禄九年ニ始マリ寶永六年ニ廢ス
 其稅額今詳カナラス其後元治元年ニ入府酒毎
 一樽ニ銀六匁ノ算加テ課ス其金額ノ豫算十萬
 五千餘兩ナリト云フ

質屋ノ算加ハ明和七年ニ始マリ質屋ノ數ヲ二
 千戸ニ限定シ毎月一戸ニ銀二匁五分ヲ課セシ
 カ天明八年ニ至リ之ヲ廢セリ
 西替商ノ役銀ハ天明二年ニ始リ營業額ヲ以テ
 増歩ヲ上納スルノ定メナリシカ後ニ天保每一
 挺ニ毎年金十四兩ヲ十ヶ年間上納スヘキニ改
 メシモ後八年ニ至ラ之ヲ廢セリ
 油會所ノ算加ハ文化七年ニ始マリ毎年金千兩
 ヲ課セシカ文政二年ニ會所ヲ停メ之ヲ廢セリ
 菱垣廻船仲間ノ算加ハ文化十年ニ十組綿店紙
二組藥種店小間物店積問屋仲間ヲ六十五組酒店釘店壁物店表店積問屋仲間ヲ六十五組二組藥種店小間物店積問屋仲間ヲ六十五組酒店釘店壁物店表店積問屋仲間ヲ六十五組
 數千九百九十五人ト定メ新株ヲ禁シ毎年一萬
 二百兩ヲ課ス天保十二年同屋組合ヲ停メテ之

ヲ發セリ事殊式ノ項ニ詳ナリ
河岸地ノ買加ハ文政七年ニ始マリ町屋敷附及
ヒ本所深川ヲ除ク外凡ソ河岸地ヲ使用スル者
ヨリ徵收シ毎年收ル所六千三百餘兩ト為ス
豐川定後ノ買加ハ文政十一年ニ始マリ深川村
本薪炭問屋之ヲ細ム毎年收ル所二百九十八兩
二分銀十匁ナリ天保十二年之ヲ發セリ
床店ノ買加ハ明和安永ノ際ニ起ルト云フ蓋シ
床店ナルモノ薄資ノ高估ニ便ニシテ裏屋ニ住
スル者モ表店ニ居ルニ異ナラス加ルニ町家ノ
如ク費用ノ課徵ナク又同業ノ支障ナケレハナ
ク故ニ元四日市柳原藏前等熱鬧ノ地ニ在ル者
ハ其利却テ他ノ商店ノ上ニ在リ而シテ買加ノ

額元四日市江戸橋廣小路ハ毎年金二百二十兩
柳原通り馬喰町地先ハ金七十兩神田堀上手通
リハ金百九十六兩三分銀十一匁兩國橋西廣小
路ハ金七兩東廣小路ハ錢五十四貫文永代橋西
助成地ハ金二百二十三兩錢六百四十八文新大
橋西助成地ハ錢四貫八百文東助成地ハ金五十
八兩錢十四貫六百文藏前通りハ金三百四十兩
ナリ寛政年中官許ヲ經スレテ設ケシモノヲ全
廢シ天保ノ末年助成地ニ係ルモノヲ除キテ其
餘ヲ廢セシカ幕府ノ末又再設セシモノアリ
請負地ノ地代ハ不用ノ官地ヲ請負人ニ貸與シ
其地代ヲ徵收スルモノナレトモ或ハ新開地埋
立地等ニモ之ヲ施行セリ又附屬地ノ地代アリ

町奉行所養生所醫學館學問所教授所和學講談
所講武所ノ附屬地是ナリ其額詳カナラス
町費ハ各町公共ノ事ニ要スル賞額ニシテ往時
ノ事今復考フ可ラスト雖モ寛政三年ニ天明五
年以降五ケ年間全府ノ總賞額ヲ平均シテ一ケ
年凡ソ十五万五千四百四十餘兩ニ當ルト云フ此
時從前ノ小間割而割坪割軒役割等區々ノモノ
ヲ改メ小間割ノ一ニ歸ス然ルニ天保十一年ニ
至リ舊制漸ク解弛シ町費十七万二千七百四十
九兩ニ増加セシカハ額内三万三千餘兩ヲ減シ
テ寛政ノ舊ニ復スト云フ
以上舊帛府參察ノ事項ト為ス

徳川慶喜政權全史

慶應三年十月十五日征夷大將軍内大臣從二位
徳川慶喜政權ヲ奉還ス朝廷之ヲ聽納シ更ニ慶
喜ヲシテ從來ノ領地市中取締等ノ事ヲ處辨セ
シム

徳川慶喜上奏シテ曰ク臣慶喜謹テ皇國時運
之沿革ヲ考ルニ昔シ 王綱紐ヲ解キ相家權
ヲ執リ保平ノ亂政權武門ニ移リテヨリ祖宗
ニ至リ更ニ寵眷ヲ蒙リニ百餘年子孫相承ク
臣其職ヲ奉スト雖モ政刑當ヲ失フコト少カ
ラス今日之形勢ニ至ルモ薄徳ノ致ス所漸懼
ニ堪ヘス況ヤ當今外國之交際日ニ盛ナルニ
由リ愈朝權一途ニ出テサレハ綱紀立テ難キ
ヲ以テ舊習ヲ改メ政權ヲ奉還シ廣ク天下ノ

公議ヲ盡シ聖斷ヲ仰キ同心協力共ニ皇國ヲ
保護セハ必ス海外萬國ト對峙スハヲ得ル臣
慶喜國家ニ盡ス所是ニ過キサルヲ知ル謹テ
奏ス

明治元年正月七日參觀

大號令ヲ發ス

明治元年慶應四年元正月七日朝廷大號令ヲ發シ諸道ニ勅シ德川慶喜追討ノ師ヲ興シ其領地ヲ没シ職官ヲ褫フ

本月三日内大臣德川慶喜大改城ニ在リ上京シテ將ニ事ヲ奏セントシ伏見ニ至ル是ヨリ先キ從屬會津藩桑名藩等輩ヲ罪ヲ朝廷ニ負ヒ入京ヲ禁セラル因テ関門衛士ノ抑止スル所ト為リ論辨陳疏言未タ決セサルニ突然銃砲ヲ交發ス慶喜遂ニ大敗ニ奪竄セシニ由ル

刑法事務總督設置

十日令シテ德川氏ノ領地ヲ直隸ト為ス
十七日刑法事務總督ヲ設ケ監察彈劾捕亡斷獄諸刑律ノ事ヲ督ス

刑法事務局定置

總裁議定參與ノ三職ヲ置キ各課ヲ定メ議定職中ニ刑法事務總督ヲ設ケ長谷三位細川右京大夫ヲ總督ニ任シ十時攝津津田山三郎ヲ其掛ト為ス
二月三日參觀

二月三日刑法事務局ヲ定置ス
三職八局ヲ定メ總裁職議定職參與職ト曰ヒ總裁局神祇事務局内國事務局外國事務局軍防事務局會計事務局刑法事務局制度事務局ト曰フ而シテ刑法事務局ハ監察彈劾捕亡斷獄諸刑律ノ事ヲ督ス近衛新前左大臣ヲ督ニ細川右京大夫ヲ輔ニ五條少納言ヲ權輔ニ溝口孤雲木村得太郎土倉修理助ヲ判事ニ任ス

正月十七日閏四月二十七日參觀

大師東發

九日熾仁親王ヲ拜シテ東征大總督ト為ニ尋ラ
錦旗節刀ヲ賜ヒ大師東發ス

正月七日四月二十一日十一月二日參觀

高札更定

三月十五日諸國從來ノ高札ヲ廢撤シ條疑ヲ更
定掲示ス太政官

掲示條欵第一札ニ曰ク人タル者五偏ノ道ヲ
正シクシ鰥寡孤獨廢疾ノ者ヲ憫ムハレ人ヲ
殺シ家ヲ燒キ賊ヲ盜ム等ノ惡業アル可ラス
第二札ニ曰ク何事ヲ論セス多衆同意スルヲ
徒黨ト稱シ徒黨シテ請願ヲ企ルヲ強訴ト曰
ヒ或ハ一同ニ居村等ヲ退去スルヲ逃散ト曰
ヒ堅ク禁止スル所ナリ若レ此等ノ者アラハ

速ニ申訴スルヲ要ス其申訴スル者ニ褒賞ヲ
給與スヘシ第三札ニ曰ク切支丹宗門ハ固ク
禁止スル所ナリ若レ不審ノ者アラハ之ヲ申
訴スルヲ要ス其申訴セシ者ニ褒賞ヲ給スヘ
シ

閏四月日參觀

江戸城ヲ收ム

四月十一日東海道先鋒總督橋本實梁江戸城ヲ
收ム

江戸市中取締委任

二十一日江戸市中取締ヲ舊町奉行石川河内守
佐久間鑄五郎ニ委ス大總督

大總督府是日ヲ以テ江戸城ニ入ル乃チ田安
中納言ヲシテ命ヲ二人ニ傳ヘシム

五月十九日參觀

江戸鎮撫取
締委任

閏四月二日大總督府特ニ田安中納言大久保一
翁勝義邦等ニ江戸鎮撫取締ヲ委任ス大總督府
参謀連

五月朔日十九日参観

第三札改定

四日第三札揭示條款ヲ改定ス太政
官達

第三札揭示條款ヲ改定シテ曰ク切支丹宗門
ハ從來ノ制禁ヲ固守スヘシ邪宗門ハ固ク之
ヲ禁止ス

舊幕府禁止スル所ノ宗門特ニ切支丹宗門ニ止
ラス不受不施宗日蓮宗悲田派ノ如キモ亦禁
止スル所ナルヲ以テ更ニ邪宗門ノ項ヲ加ル
モノトス

三月十五日参観

關東監察使東下

十日諸道總督府三條大納言ヲ以テ關東監察使

ト為シ東下シテ人民ヲ安撫セシム

是ヨリ先キ徳川慶喜降伏シテ罪ヲ謝シ天裁
ヲ仰キ寛典ニ處セラレシヲ以テナリ

七月 映参観

諸藩兵隊市
中警邏

十六日尾紀薩長等十二藩ニ命シ其兵隊ヲシラ
市中ヲ警邏シ姦軌ヲ鎮防セシム大總督府
参謀連

刑法官設置

二十七日刑法官ヲ置キ監察鞠獄捕亡ノ三司ヲ
管シ總判執法守律監察糾彈捕亡街獄ノ事務ヲ
掌理セシム太政
官達

太政官ヲ分々テ議政行政神祇會計軍務外國
刑法ノ七官ト為シ知官事副知官事判官事權
判官事書記筆生等ノ官ヲ置ク

二月三日参観

出版條例ノ始

二十八日新著註翻刻書籍等官許ヲ得スシラ

刊行スルヲ禁ス告布

六月八日參觀

官軍市中巡邏

五月朔日田安慶頼其他各藩ノ江戸市中巡邏ヲ

罷メ官軍ヲシテ市中ヲ巡邏セシム

閏四月二日十六日參觀

江戸府創置

十一日江戸府ヲ創置ス

三等陸軍將宰相烏丸光徳江戸府知事ニ任ス

八月十七日二十日參觀

彰義隊勦誅

十五日舊幕府麾下脱走ノ徒ヲ上野山内ニ攻撃

シ其巢窟ヲ殲ス殘黨四方ニ散亂シ府下戒嚴ス

往キニ徳川慶喜悔悟降伏恭順罪ヲ謝シ朝傘

於テ苟モ奉セサル所ナレ麾下詭激ノ士之

ヲ喜ハサル者往々四方ニ脱走シ其徒上野山

内ニ屯集スル者數千人之ヲ彰義隊ト稱シ動

モスレハ官軍ニ抗衡シ奥羽諸藩ニ氣脈ヲ通

シ其主家ヲ恢復セント欲ス時或ハ市中ニ伺

出シ屢民賊ヲ掠奪シ官軍ノ兵士ヲ暗殺ス此

ニ至リ大總督府令ヲ下シ之ヲ勦誅セシム

江戸鎮臺設置

十九日江戸鎮臺ヲ置キ社寺裁判所南北市政裁

判所民政裁判所ヲ設ク大總督府布告

寺社奉行町奉行勘定奉行ヲ廢シ更ニ舊寺社

奉行所ヲ社寺裁判所ト舊南北町奉行所ヲ南

北市政裁判所ト舊勘定奉行所ヲ民政裁判所

ト改稱ス而シテ有栖川大總督官ヲ鎮臺ト為

シ橋本少將ヲ鎮臺輔社寺掛ト大原前侍從ヲ

鎮臺補所掛ト西四辻大夫ヲ鎮臺輔勘定掛ト
為シ新田三郎小笠原唯八江藤新平土方大
一郎ヲ鎮臺判事ト為シ北畠千太郎西尾遠江介
頼川源藏ヲ加勢ト為ス

是日田安大納言大久保一翁勝義邦等ノ江戸
鎮撫取締ノ委任ヲ解キ舊奉行所屬ノ吏員ヲ

シテ姑ク沿襲勤務セシム

閏四月二日七月晦八月八日十七日參觀

二十七日舊所奉行附屬ノ與力同心等ヲ擧用シ
鎮臺附屬ト為シ祿米ヲ下賜スル舊ニ仍ラシム

七月晦參觀

新聞條例之始

六月八日官准シ經ルレヲ新聞紙其他ノ文書ヲ
刊行發賣スルヲ禁ス

閏四月二十八日六月二十日二年二月八日
參觀

浮浪ノ徒聚合シ及ヒ私ニ兵卒ヲ勸誘シ練兵ヲ
為スヲ禁ス

惡業ヲ禁戒ス

十日暗殺強奪等ノ惡業ヲ禁戒ス

告布

近來頻リニ路人ヲ暗殺シ其財物ヲ掠奪スル
者アルヲ以テ屢嚴令スル所アルモ惡習猶未
夕止マズ因テ更ニ令シテ嚴ニ之ヲ禁督セシ
メ藩士兵隊等ノ中此ノ如キノ所業アラハ本
人ヲ嚴刑ニ處スルノミナラス其主人父兄ニ
至ルマテ之ヲ罪スヘキヲ知會セシメ且夜中
無燈通行ノ禁ヲ犯ス者アレハ之ヲ捕押シ又
市中ニ暴行スル者ハ帶刀人ト雖モ之ヲ緝捕
セシム

二十日文書ヲ開版セシト欲スル者ハ學校官ノ
核定ヲ經テ彫刻ニ附セシム

布告
八日二年正月二十七日參觀

七月十日大久保與七郎兵隊ヲ市政裁判所ノ所
屬ト為ス

是ヨリ先キ與七郎建議シテ曰ク近來四谷内
藤新宿宿邊ハ浮浪輩黨ヲナシ市在ニ出入狼藉
シ金錢等ヲ強借シ其地方ノ困難言フ可ラサ
ルモノアリ與七郎其近傍ニ在リテ坐視スル
ニ志ヒス依テ其兵士七十四名中三十七名ハ
和田倉御門ノ警衛タルヲ以テ其半隊ヲ二分
シ其十八名ヲ宿陣詰トナシ其十九名ヲ新宿
等ノ警衛ニ充テ郊内演武場ヲ以テ此營ニ充

テ晝夜在勤セシメ諸方ノ警報ヲ待テ凶賊暴
漢アルトキハ之ヲ緝捕シ當該官衙ニ送送シ
強拒暴動ノ所作ニ涉ラハ之ヲ力制シ且兵士
ヲ揆束シテ過激ノ舉動ヲ戒メ夜中宿内等ヲ
巡邏セシメハ居民一般營業安堵シテ天恩ノ
優渥ヲ感戴スルニ至ラント請フ朝議之ヲ採
納シ因テ此命アリ是ヲ府下諸藩取締ノ嚆矢
ト為ス

十二月二十三日參觀

江戸東京ト稱ス

十七日詔シテ江戸ヲ東京ト稱セシム

詔書

詔書ニ曰ク朕今萬機ヲ親裁レ億兆ヲ綏撫ス
江戸ハ東國第一ノ大鎮四方輻湊ノ地宜シク
親臨以テ其政ヲ視ル可シ因テ自今江戸ヲ稱

シテ東京トセシ是朕ノ海内一家東西同視ス
ル所以ナリ朕庶此意ヲ體セヨ其副書ニ曰ク
慶長年間幕府ヲ江戸ニ創開セシテ以テ府下
日々繁榮ヲ致ス是レ全ク天下ノ大勢斯ニ歸
着シ貨賤隨テ聚ル所以ナリ然ルニ今ヤ幕府
ヲ廢止セハ府下億方ノ人口頓ニ活計ヲ失フ
者多カクシ實ニ皇怒ヲ垂レサセラル所ナ
リ方今宇内各國通信ヲ擴ムルノ時運ニシテ
專ラ全國ノカヲ平均シ皇國保護ノ目途ヲ立
テサル可ラサル際會ナレハ屢東西ニ巡幸シ
萬民ノ疾苦ヲ慰問セラレント欲スルノ衷衷
ヨリ發セラレタル詔文ノ旨趣ナリ汝等府民
詔意ヲ奉戴シ奢靡ノ舊習ヲ排脱シ一身一家

ノ活計ヲ確立シ各自職業ヲ勵ミ精巧ナル諸
品ヲ製作シ物産ヲ隆興シテ府下永久ノ繁榮
ヲ期望ス可シ
十月十三日參觀

東京府ヲ置キ
江戸府ヲ廢ス

東京府ヲ置キ江戸府ヲ廢ス
告布
八月十七日參觀

二十三日農高等官堂上ノ邸宅ニ出入シ權威ヲ
假ル者ヲ禁督ス
告布
農商輩些ノ縁故ヲ以テ官堂上ノ邸宅ニ出入
シ用違或ハ館人ト稱シ提燈ニ御用ノ文字ヲ
標記シ或ハ徽章ヲ附シ權威ヲ弄スル者アル
ヲ以テ今後斯ノ如キ者ハ速ニ捕縛推糺セシ
ム

兵隊規則

武家邸宅ヲ商人ニ貸與スルヲ申禁ス大總督府布告
武家邸宅ヲ商人ニ貸與スルハ從來嚴禁スル所ナルニ近來或ハ之ヲ貸與スル者アルヲ以テ是等ノ類ハ速ニ退去セシム若シ家僕等ト稱シ等閑ニ附スル者ハ查覈シテ之ヲ處置スハキヲ以テ豫メ此旨ヲ知會セシム
是月市政裁判所兵隊規則ヲ制定頒布ス
規則ノ略ニ曰ク其一盜賊姦民等ヲ捕緝スルヲ專務トシ當局ノ三廻ト協同從事ス可シ但當局ノ報ニ接スルトキハ速ニ應スルノ準備ヲ為シ人數ノ多寡ハ其時宜ニ依ルハレ緝縛ヒシ者ヲ訊鞠スルトキハ廻方同心ヲ臨會セシム私ニ糾問スルヲ許サス其二晝夜五名南

鎮臺府ヲ發シ鎮時府ヲ置ク

北高ニ更互在勤シテ臨時ノ所務ニ應ス其三火災アレハ遠近ニ拘ハラズ在勤外五名兩局ニ馳參シ判事出張ノ際ハ隨伴シテ非常ヲ警戒ス但小火災ナレハ月番ノ一局ニシテ參候スルモ可ナリ其四措キ難キ事項ヲ見聞セシトキハ判事、供出シ私ニ處置裁斷スルヲ許サス其五公私ニ別ナク平常市民ニ對シ苛酷粗暴ノ舉動ヲ禁ス以上五款ノ事項ハ新政ノ趣意ヲ體レ民害ヲ除クニ外ナラサレハ務メテ此意ヲ失ハズ勉勵盡カスハヲ要ス
八月十七日參觀
鎮臺府ヲ廢シ鎮時府ヲ置ク鎮時府
大總督官鎮臺ヲ免セラシ三條右大臣ヲ鎮時

鎮時

浮浪ノ徒
復歸セシム

ト為ス

五月十九日十月十八日参観

八月四日脱藩及ヒ浮浪ノ徒ヲシテ各舊地ニ復
歸シ戸籍ヲ正サレム吉布

多年有志ノ士往々藩籍ヲ脱シ周遊義ヲ唱ヘ
高節ニ嬰ラ而シテ難ニ殉セル者尠シトセズ
王政復古ノ大業ヲ致シタル其功許多ナリト
ス然リト雖モ今ヤ政體維新天下和穩上下同
心ノ時ニ當リ尚ホ舊習ニ慣レテ脱籍放浪其
居ヲ定メサルハ頓ル僭濫ニ涉リ且斯ノ如キ
ハ終ニ法網ヲ犯スニ至ルノ虞アルヲ以テ乃
テ此ニ及フ蓋シ従前ノ功ヲ没セス將來ノ害
ヲ防ク所以ナリトス

二年四月十五日参観

八月民政裁判所ヲ會計局ト改ム鎮將府
布告

五月十九日十月十八日参観

東京府廳開創

十七日東京府廳ヲ開創シ此ニ南北市政裁判所

ヲ併傷ス東京府
運

幸橋内元柳澤邸ヲ以テ府廳ニ充ツト雖當時
補繕ヲ要スルカ為メニ姑ク南裁判所ヲ以テ
假廳ト為ス

七月十七日参観

二十日前江戸府知事烏丸光徳東京府知事ニ任

ス

十一月七日参観

二十一日諸藩ヨリ藩士各一名ヲ選出セシメ東

京府知事附属ト為レ以テ取締ニ充ラレム東京府

ハリニ藩

肥前肥後阿州因州彦根久留米肥後備前筑州尾州薩州柳河十二藩ヨリ藩士ヲ選出セシメ之ヲ東京府ニ屬シ取締ヲ改正シ舊來ノ弊習ヲ除去セレトスルカ為ナリ

兵隊此所設置

二十五日協談シテ市中便地ニ兵隊此所ヲ設置セシム東京府

東京市内ヲ區畫シ毎區諸藩隊長ニ取締ヲ命ジ當局吏員ヲシテ巡邏セシメ区内便地ニ此所ヲ設ケ各名主ヲシテ便宜談所ニ當直シ諸事取締ノ指揮ニ隨ヒ若シ区内亂妨者アルハ速ニ警防セシム而シテ其費用ハ不日官給ス

ハキヲ令ス

二十七日書籍商等ノ郵頭ニ詔書ノ謄本及ヒ太政官領將東京府日誌等ノ類ヲ混同排置スルヲ止メシム東京府

居留地ノ間出貨物ヲ禁ス

二十八日外國人居留地ノ間出貨物ヲ禁ス東京府東京府令ニ曰ク鐵砲洲ハ固ヨリ外國人ヲ居留セシムルノ開市ナレハ自由ニ貿易ヲ許スト雖モ密賣買ハ嚴禁スル所ナルヲ以テ今後外國人ト協謀シ貨物ヲ間出スル者アルヲ聞知レ或ハ間出貨物ト認知スルトキハ其貨物若クハ其犯人ヲ捕押シ東京府裁判所鐵砲洲役所ニ出訴ス可シ然ルトキハ該貨物十分ノ三或ハ全額ヲ給與ス若シ犯人ノミヲ捕獲セ

警衛新設

ハ更ニ賞與スル所アル可シ若シ之ヲ誌了默
過シ其事他ヨリ發露スルトキハ本人ニ論ナ
ク其所管役人マテ嚴科ニ處ス可シ

市中每區ニ警衛ヲ新設シ其規則ヲ市中取締隊
長ニ頒府東京ツ達

規則ノ略ニ曰ク其一夜間市街ヲ橫行スル者

ハ直々ニ詰問シ翌日之ヲ上報ス其二醉倒人

ノ處置モ亦前件ニ同シ其三強盜ヲ捕緝スル

ニ臨ミ其勢當リ難キ者ハ斫殺スルヲ妨ケス

ト雖モ務テ稔當ノ處置ヲ為ス可シ其四奸高

輩公事訴訟請願等ヲ夤緣依頼スル者アラハ

逐ニ其所管ノ名主ヲ召喚シ其仔細ヲ追窮シ

テ上報スヘシ其五警衛每管區ハ其隊長ノ姓

名ヲ標柱ニ題記シ其區域ヲ判明ス其六舊幕

諸臣ノ邸内或ハ姦慝ノ潜伏スル者アルヲ以

テ探偵捕押ヲ急ル勿シ其七市中取締ノ法ヲ

嚴守レ寬猛相濟ヒ精勵盡カセヨ以上ノ制條

ヲ自守レ隊下ヲシテ遵守セシムルヲ要ス

九月四日又市中ニ令シテ曰ク諸藩隊長ヲ市

中取締ニ充テラレ管區ヲ定メラルハ專ラ

強盜或ハ姦軌ノ市中ニ潛匿スル者ヲ警防セ

シムルカ為メニシテ市政ニ關係スル者ニ非

ズ故ニ訴訟請願等ノ常務ハ舊例ニ遵由ス可

シ

十二月十七日參觀

軍艦ヲ除ク外無印船ノ出入ヲ禁ス東京府達

無印船ノ出入
ヲ禁ス

是ヨリ先キ尾紀水三藩並旗下ノ士ノ所有ニ
係ル船舶ハ課税及ヒ検査ヲ免ズ故ニ近來點
猾ノ徒陽ニ其名ヲ借り以テ法網ヲ潛クル者
アリ是ニ於テ軍艦ヲ除クノ外各藩所有船舶及
ヒ商船等ヲ論セス悉ク之ヲ検査課税シ其終
了セル者ハ之ニ烙印ス

是月柳河藩兵士五十人ヲシテ下谷ニ屯集シ取
締ヲ為サシム

頃日脱藩者亂行市中ヲ騷擾セシニ由ル

東京府ヨリ取締隊ノ稟候セル勤務方法ニ指揮
ス

取締隊稟候ニ曰ク其一匪徒ヲ捕緝セル都テ
府廳ニ護送スハキヤ但囚人ヲ訊問シ其夥伴

ヲ申白セルハ直々ニ探索捕緝ニ着手ス可キヤ
其二囚人ノ口供ニ依リ其連累者ノ措ク可ラ
サル者ハ直々ニ召喚シテ訊問セル顛末ヲ上
供ス可キヤ其三拒捕ノ賊ヲ殺死シ若クハ重
傷ヲ負ハシメシ者ハ其場ニ豫管シ之ヲ具狀
ス可キヤ其四前項ノ如キ危機ニ際シ若シ路
人等ニ負傷者アリタルトキハ直々ニ診療ニ
着手シタル後家族或ハ役人ニ送付シ其顛末
ヲ具狀ス可キヤ但該費用ハ町役人等ノ申請
ニ依リ直々ニ之ヲ下付セル其丑夜陰深更ニ
捕緝セルモノハ此所ニ拘繫シ翌朝ニ至リ之
ヲ護送ス可キヤ其六盜賊ヲ逸セシトキ賊器
中標識アルモノハ直々ニ告示ヲ發シ探索緝

捕ニ着手スヘキヤ其七兇賊ノ所管区内ニ潛
匿セルヲ探聞スルトキハ直ケニ查察緝捕ス
可キヤ其八所管区内ノ異變其他聞見ニ觸レ
タル事項ハ顛末ヲ具状ス可キヤ其九喧嘩爭
論等ハ雙方ヲ捕押シ顛末ヲ尋問シ其事項細
ナルモノハ町役人ニ廻付シ其情况ヲ供申シ
事或ハ人命ニ關スルモノハ府廳ニ護送ス可
キヤ其中市中家主輩ヲシテ日々屯所等ニ出
務セシムルトキハ自ラ町費ニ響納シ且營業
ヲ妨害スルニ由リ今後之カ出務ヲ廢シ奔走
報道等ノ事項ハ屬下ヲ使用セルトス然トモ
諸用度ニ關スル事項ヲ處理セシムルカ為メ
区内ノ各主一名ヲシテ日勤セシム可キヤ但

用度金員繰替等ノ事項ハ区内富有者一名ニ
擔當セシム可キヤ以上速ニ指揮ヲ請フト東
京府指令ニ曰ク其一其二其三其七其八ハ稟
意ノ如シ其四費用ヲ計査シテ上供ス可シ其
五番衛等ハ隊長ノ指揮ヲ承ク可シ其六告示
ヲ發スルハ本府ニ具申スヘシ其九臨機ノ處
置ハ各隊長合議處分ス可シ其十諸入費用繰
換ノ事項ハ所管地内協議シテ不平ナキヲ要
ス

是月近來社々僧侶等其社殿堂宇ノ頽圯ヲ營繕
スルニ託シ私カニ富籤類似ノ會ヲ起シ金銀ヲ
貪取スルノ聞ヘアルヲ以テ此ノ如キ者アラハ
速ニ捕緝處分セシム

東京府達

富籤類似ノ會ヲ禁ス

墮胎ノ禁

十二月 日 参観

墮胎ノ弊習ヲ嚴禁ス

東京府建

從來陋巷ノ小民其妻懷孕ニ至レハ家計ノ便否ニ據リ墮胎セシムルヲ常トシ又竊カニ墮胎セシムルヲ以テ業トスル者アリ此ノ如キ陋習ヲ不問ニ附スルハ町役人ノ緩慢ナルヲ以テ今後墮胎ノ事ニ關シ事機ニ依リ其連累所管ノ町役人ニ及フ可キヲ以テ此等ノ事ヲ嚴戒ス可キヲ令ス

十二月二十六日 参観

十月二日 間部内繕正曾我主水正内藤駒次郎水野式部久永相摸守等ノ兵隊ヲ以テ東京府附属ト為レ府下ノ取締ニ充テ其部署約束等ハ同府

中野米町江戸城ヲ東在城ト稱ス

發砲ノ禁

ノ指揮ニ從ハシム

領府建

十二月二十三日 参観

十三日 車駕東臨舊江戸城ヲ以テ皇居ト定メ東京城ト稱シ行宮ノ稱ヲ廢止セラハ

十二月八日 参観

行政官建

十七日 東京府内何ノ地ヲ問ハス漫然發砲レ或ハ近郊ニ獵銃ヲ射放スル者アレハ速ニ緝捕レ

嚴科ニ處スルキヲ令ス

東京府建

十二月二十八日 参観

十八日 鎮府府及ヒ會計局ヲ發止レ更ニ會計官出張所ヲ設置ス

元會評局附属與願以下諸吏ハ舊ニ仍リテ使用シ元評定所ハ刑法官ニ趣附ス

鎮府府及會計局廢止

七月、昨八月八日参観

二十七日東京府ヲシテ軍務官ニ協示レ賊盜ヲ逮捕シ警戒ヲ嚴ニシ安寧保護ヲ務メシム

龍駕東臨ヲ辱フレ蒼生ヲ愍ミ之ヲ綏撫セラ
ル、ノ月ニ方リ近日市中盜賊横行シ人民ヲ困苦セシムルノ事天聽ニ達シ大ニ宸襟ヲ愜マセラル、ニ依ル

是月品川新宿千住板橋等傍近ノ村吏ニ會計局
附屬ヲ命シ大小總代ト協議レ盜賊博徒等ノ逮捕ニ從事セシム會計局

匪徒ノ香具師中ニ潛匿スル者ヲ檢覈セシム東京府
香具師ト稱スル者ハ諸所群集ノ地ヲ逐ヒ觀

東征總督辭任

物賣樂ヲ以テ業トスル者ノ如シト雖モ或ハ
追跡セラル、者姿體ヲ變換シ其夥伴ニ潛匿
スルモ知ル可ラサレハ其主者ハ人別帳ヲ調
製シ主管者ヲ選ミ府内定住者ニ歸ナク他邦
ヨリ來ル者ノ身位貫籍ヲ亂記入レ疑點ア
ル者ハ密報レ各地注意ヲ怠ル可ラサルヲ市
内名主以下ニ申令ス

十一月二日國內平定東征大總督熾仁親皇ノ任
ヲ解ク
二月九日参観

三日帶刀人或ハ官吏ノ從僕等角能劇場等ニ到
リ暴威ヲ振ヒ無錢縱觀スル者ヲ禁督ス行政
七日東京府知事烏丸光徳頼ニ依テ其職ヲ免ス

菊章ノ禁

八月二十日十二月四日參觀

十九日菊花章ヲ漫リニ器物等ニ描出スルヲ禁

止ス東京府達

二十三日此日各國公使參朝スルヲ以テ市中ニ

令レ各其擔當區域ヲ警戒セシム東京府達

諸侯ノ其沿道ヲ通行スルヲ禁レ且各主家主

等ヲシテ擔當區域ヲ守リ往還ヲ洒掃シ行人

ヲ杜塞シ及ヒ暴漢ヲ防禦シ公使通行夜陰ニ

且ルトキハ民家ノ軒端ニ提灯ヲ吊下セシム

是月關東八州並伊豆國牛馬賣買營業ノ者ニ鑑

札ヲ下付シ一張網ニ七頭ヲ限リ牽繫スルヲ許

會計官達

十二月一日帶刀人僧尼等市中ニ住居シ戶籍ノ

牛馬賣買規則ノ始

課役ヲ拒ム者ハ其居宅土地ヲ併セテ之ヲ收没

セシム行政官達

二日市中取締兵隊ヲ換視等ニ差遣スルニ際シ

食膳ヲ供出スルコト勿ラシム東京府達

畢竟役人公務ヲ以テ出張スル者ノ為ニ町費

ヲ増發セシムルハ上憲ノ在ニ處ニ非ニシ以

テ今後舊弊ヲ洗除シ出張者饋饗ヲ受ルニ論

ナク所管各主輩モ亦過失ニ歸ス可キヲ以テ

各自之ヲ服膺セシム

市中取締兵隊巡邏シ姦宄ヲ捕拿スルニ方リ已

ムコトヲ得ス拒捕ノ賊ヲ殺死セシトキハ屍骸

ヲ其場地ニ豫管シ隊長或ハ捕亡ヨリ其事情ヲ

東京府ニ具申シ府廳ヨリ換視差遣ノ際之ニ臨

會セシム東京府連

四日參與大木民平ヲシテ東京府知事ノ職務ヲ

兼攝セシム

十一月七日二年五月十五日參觀

警衛巡邏改定

五日諸藩隊長ノ取締ヲ罷メ東京市中ヲ四十七區ニ分割シ一橋以下三十藩ニ警衛巡邏ヲ命ジ而シテ事務ノ方向警地ノ區處ハ東京府ニ協合セシム

三十藩ハ一橋大納言田安中納言松平大和守堀田相摸守板倉百助大岡主膳正黒田祐後守久松大藏少輔大久保佐渡守土岐隼人正中山備中守新庄下野守米澤伊勢守井上伊豫守稻葉備後守井伊宮内少輔細川玄蕃頼山口周防

守阿部駿河守加納遠江守水野肥前守保科彈正忠内田主殿頼堀田攝津守松平豊前守有馬兵庫頭森川内膳正吉川左兵衛督酒井下野守石川若狭守ト為ス尋テ松平下總守モ亦此命ヲ兼ク
二年正月八日參觀

七日醫業ヲ為ス者ヲシテ益學術ヲ研究セシム

醫師ノ術タル人命ニ関シ容易ナラサルノ職

業ト為ス然ルニ近來不學無術ノ徒隘ニ方藥ヲ弄シ生命ヲ誤ル者少ナカラス實ニ不肅ノ事ナルヲ以テ朝旨他日將ニ醫學所ヲ建設シ規程ヲ定メ醫師ノ學術ヲ試驗シテ免許セシ

聖駕還幸

者ニ非レハ開業ヲ許サ、ラレトス因テ府藩
縣ヲレテ治下醫業ノ徒ニ徧ク此旨ヲ達示レ
益學術ヲ研究セシム

八月聖駕東京城ヲ發シ西京ニ還幸ス
十月十三日ニ年三月二十八日參觀

取締兵隊規則

十七日東京市在區別取締兵隊規則ヲ頒ツ

規則ノ略ニ曰ク其一管轄區内ニ化附ヲ設ケ
兵隊ヲ出張セシメ晝夜巡邏ヲ務ム其二劫盜
其他亂賊暴徒ヲ鎮撫スルヲ以テ專務ト為ス
但制縛ニ臨ミ強拒兇器ヲ交フルニ至ルハ其
勢ヒ止ミ難シト為スモ務メラカヲ摘獲ニ致
シ就中姓名ヲ自由シ命令ニ隨從スル者ハ其
身位ヲ糾訊ス其三形迹ノ疑フ可キ者ヲ捕拿

兵隊取締規則

スルニ方リ徐ニ命ヲ聽ク者ハ縛セステ之
ヲ糾訊ス其四捕拿セシ者ハ一應糾問シ其口
供ヲ添付シ兵卒ヲシテ東京府ニ護送セシム
但醉倒人等ハ一訊シ他ニ罪迹ナキモノハ經
伺放還ス其五所管區内火災ニ罹ルトキハ隣
區ノ族ニ赴カス其守場ヲ嚴警ス其六隊士ハ
公私ニ關セス市民ニ對シ苛酷粗暴ノ舉動ア
ルヲ禁ス其七市民ヨリ公事訴訟或ハ土地人
民ノ進退又ハ政務等ニ關係スル事件ヲ提出
スルモ之ヲ處理スルヲ禁ス
八月二十八日ニ年五月

二十三日東京府内ノ區別ヲ改定スルニ依リ間
部内膳正曾我主水正内藤駒次郎水野式部久永

相摸守久世三四郎杉浦桂之進永田勝左衛門大
久保銳三郎戸田太郎本多駒之助日向小間太勝
田綱吉大久保與七郎藤堂兼之丞酒井米女松平
米女上杉源四郎等ノ兵隊從來東京府ニ附屬シ
府下取締ヲ命セシモノヲ引退歸復セシム東京府

是日東京府御用掛市中取締隊長十二名ヲ免
ス

二十六日産婆ノ墮胎ニ干與スルコトヲ嚴禁ス
東京府

從來産婆中ニ墮胎ノ藥劑ヲ賣リ或ハ手術ヲ
施ス者往々ニシテ在リ故ニ今般假令ト他ノ
依頼ヲ受ルモ墮胎ノ事ニ干與スルコトナク

若シ之ニ悖ル者アラハ亂明シテ赦サハルヲ
嚴令ス

九月 朕參觀

居留地警邏

是月宇和島藩ヲシテ鐵砲洲外國人居留地ノ取
締ヲ周匝嚴密ニシ其部署約束ハ東京府ニ兼ケ
シム

宇和島藩ハ從來外國人居留地ノ取締ニ從事
セシテ以テナリ

富籤ノ禁

富籤興行ヲ嚴禁ス東京府

富籤興行ハ從來禁制セシ所ナルモ近來金錢
融通ヲ以テ口實トシ或ハ社寺再建等ニ託シ
僥倖賤利ノ餌ヲ以テ民心ヲ誘惑シ愚民遂ニ
其本業ヲ委棄シ為メニ家屋ヲ蕩盡スルモノ

亦少カラサルヲ以テナリ
九月 睦參觀

市中取締諸藩
退之軍務官ニ委之

二年正月八日東京市中取締諸藩ノ進退ヲ軍務
官ニ委シ其部署勤務等ハ尚東京府ヲシテ指揮
セシム

元年十二月五日二年二月十三日十一月十
五日參觀

二十二月軍務官管轄兵士ノ犯罪處分ヲ市中取
締諸藩ニ申令ス

市中取締諸藩森川内膳正水野肥前寺阿部駿
河守酒井下野守松平大和守山口周防守吉井
佐兵衛督堀田彌津守加納遠江守板倉百助細
川玄蕃頭新庄下野守一橋大納言井上伊豫守
土岐隼人正田安中納言中山備中守井上宮内
少輔黒田龍後守大久保佐渡守松平下總守宿
葉備後守松平和泉守伊達侍從米津伊勢守保

觀

圖書開版規程

科彈正忠内田主殿頭石川若狭守大岡主膳正
柳澤信濃守ニ申令シテ曰ク軍務官管轄ノ兵
士事故アリテ之ヲ捕拿スルトキハ直ニ其
隊長ニ照會シテ之ヲ遣歸セシメ其毎次本府
ニ申牒スヘシ但大金ヲ強奪レ或ハ拔刀等非
違ノ行為アル者ハ鞠訊シテ罪状書ヲ附シ軍
務官ニ護送ス其已ムコトヲ得サルニ非ル可
リハ務ヲ捕縛セサルヲ要ス
十一月十五日参観

二十七日圖書開版ノ規程ヲ定メ圖書ノ重版ヲ

申禁ス行政官達

圖書ヲ開版セルトスル者ハ其管轄府藩縣ニ
上願レ府藩縣ヨリ其稿本註著述者ノ御貫氏

新聞紙發行ノ許

各ヲ詳記シテ行政官ニ稟候セシム而シテ官
許上版ノ後ハ一部ヲ行政官ニ納進セシム但
舊來ノ藏版ヲ再刻シ或ハ大本ヲ小本ト為シ
大圖ヲ小圖ニ縮ルカ如キハ最初出版セシ年
月ヲ記シテ上牒セシム官許ヲ受ケスレテ他
書ノ題號ノミヲ變更出版スル者ハ嚴ニ之ヲ
處罰ス而シテ從來藏版ノ圖書ハ題號及ヒ著
者ノ氏各官許ノ年月日ヲ詳記シ本年二月ヲ
期シテ行政官ニ進致セシム
元年六月二十日二年五月十三日參觀

二月八日新聞紙ノ發行ヲ公許シ學校ニ出願シ
テ認可ヲ受ケシム
行政官
元年六月八日六年十月十九日參觀

取締諸藩
頭ノ道ク

九日刑法官監察ヲ諸官府縣ニ派出ス
刑法官監察ヲミテ臨時諸官府縣ヲ巡回セシ
ムルヲ以テ監察ヨリ公事ヲ推問スルトキハ
隠匿スルコトナク之ニ答議レ且公文書類ヲ
閱覽セント欲スルトキハ隨時其求ニ應セシ
ム
七月八日參觀

十三日市中取締諸藩ニ觸頭ヲ置ク
田安中納言徳川觸頭ト為シ小石川傳通院
ニ化レ堀田攝津守加納遠江守板倉百助中山
備中守土政隼人正指葉備後守等六藩之ニ屬
ス一橋大納言徳川觸頭ト為シ本所田向院
ニ化レ松平和泉寺水野肥前守大岡主膳正新

庄下野守四藩之ニ属ス松平下總守志原 忍ヲ
 觸頭ト為シ浅草警願寺ニ化シ森川内膳正細
 川玄蕃頼大久保佐渡守黒田筑後守石川若狭
 守初澤信濃守井上宮内少輔等七藩之ニ属ス
 松平大和守直克 前主ヲ觸頭ト為シ是金地院ニ
 化シ酒井下野守山口周防守吉井左兵衛督井
 上伊豫守末津伊勢守保科彈正忠内田主殿頭
 阿部駿河守等八藩之ニ属ス即チ各自方面ヲ
 分チ警戒巡察以テ匪違ヲ捕緝ス蓋シ之ヲ規
 今方面分轄ノ鼻祖ト為ス而シテ伊達侍從和守
 主島藩ハ特ニ築地外國人居留地ノ取締ヲ命セ
 ラルコト故トノ如シ
 十一月十五日參觀

十九日東京朱引地内ノ諸邸宅竝家屋ヲ撤去ス
 ルヲ禁ス告布

密賣淫ノ禁

東京中東ハ本所扇橋ノ川路ヲ限リ西ハ麻布
 赤及四谷市各牛込ヲ限リ南ハ品川縣境ヨリ
 高輪町ノ背面白金臺町二丁目麻布本村町ノ
 線路青山ヲ限リ北ハ小石川傳通院池ノ端上
 野浅草寺ノ後ヨリ橋場町ヲ限リ別録地圖略
 朱線内ノ諸邸其他居宅等ヲ撤去スルヲ禁シ
 且朱線外ノ地ハ漸次開墾スハキヲ以テ朱線
 外ニ居住スル者ハ務テ朱線内ニ移轉セシム
 密賣淫ノ所業ヲ嚴禁ス東京 有達
 近來女子ノ賣淫ヲ業トスル者多ク其甚シキ
 ニ至ラハ又母之ヲ勸誘シ覩トシテ顧ミサハ

者アルニ至ル因テ今後其匪行ヲ改悔シ正業ニ從事スハキヲ告諭シ若シ其過ヲ知ラス尚醜業ヲ為スモノハ本人親戚窠主ニ論ナク所管役人ニ至ルマテ嚴重之ヲ處分ス可キヲ申令ス

八年四月四日參觀

二十二日春盡其他狼麩ニ涉ル緇虛器具等ヲ露出シ若クハ販賣スルコトヲ禁ス東京府

七年一月二十日參觀

朱引地内ニ田園ヲ作ルヲ禁ス

是月東京朱引地内ニ田園ヲ作ルヲ禁ス東京府金銀竝金札包生ヲ設置シ貨幣ヲ檢定セシム東京府當時喪亂ノ餘贗造金貨錯雜シテ賤用流通セ

ス上下困弊ニ因テ金銀竝金札包生ヲ本町一丁目ニ設置シ其檢定ニ係ルモノハ正貨トシ其色裝貨幣モ亦流用シテ壅滯スルコトナカラシム

道路ニ倒死スル者アルハ速ニ府廳ニ上報セシム東京府

下情ヲ抑塞シ脱籍者ヲ生ズル等ノ弊ナキニ注意セシム東京府

曩ニ脱籍淳浪ノ徒ヲ查點シ之ヲシテ所管府藩縣ニ復歸セシメ今ヤ其迹ヲ留メサル可シト雖モ今後尚下情ヲ抑塞シ再ヒ亡命ニ至ラシムルノ處置ナカラシム

四月十五日參觀

男女混入ノ浴
湯ヲ禁ス

男女混入ノ浴湯ヲ申禁ス東京府達

男女混入ノ浴湯ハ從來之ヲ停止セシニ均ラ
ス今猶密ニ之ヲ犯ス者アルヲ以テ嚴ニ之ヲ
禁シ藥湯ト雖モ混入ヲ許サス且湯屋營業者
ノ鄰前及ヒ樓上ハ簾箔ヲ以テ外見ヲ遮リ家
屋改築ノ際ハ軒下隣竝ヨリ後退シテ塀障ヲ
作り其門竇ヲ蔽ハシハ若シ之ヲ犯ス者ハ嚴
ニ之ヲ處分スヘキヲ令ス
七年一月二十日參觀

名主ヲ廢年
寄ヲ置

三月十日東京市中ノ名主役ヲ廢シ更ニ中年寄
副年寄ヲ置東京府達

十六日東京市中ノ五十區ニ分割シ中年寄副年
寄ヲ置東京府達

市中ヲ五十區
ニ分割ス

囚人ノ衣食ヲ
官給ス

十七日囚人ノ衣食藥料等ヲ官給ス辯事

從來囚人ニ衣食ヲ官給セシハ無宿ニ限リシ
モ今後有宿無宿ヲ論ヤス其衣食藥料ハ總テ
官費支給セシム六月八日更ニ令シテ有宿
囚人ノ衣食ハ尚舊ニ依ラシム

別手組ヲ軍務
官ニ屬ス

二十四日別手組ヲ軍務官ニ屬シ更ニ外國官ニ

寄ヲ配道シ每五區ニ世話掛中年寄各一名ヲ增
加ス東京府達

從前名主ハ地面ノ賣買家屋ノ賃稅或ハ公事
訴訟等其他關係事故アルニ會ハハ取引ノ步
合金ヲ徴シ或ハ報酬ヲ受ル等許多ノ弊風ア
ルヲ以テ今後此等ノ事ヲ因襲セハ受檢兩造
ヲ處分スヘキヲ令ス

出仕セシム時太政官

別手組ハ舊幕府ニ在テ外國人ヲ警衛セシメ

シ者トス今其八十名ヲ擧テ軍務官ニ屬シ更

ニ外國人ノ警衛ニ充ツ

三年七月二十四日五年八月十四日參觀

聖駕東臨

二十八日聖駕後々東臨シ此日ヲ以テ東京城ニ

着御セララル

是ヨリ先キ東京府令シテ曰ク聖駕後々東臨

ヲ辱クシ近日着御セララル可シ斯クノ如ク至

尊ノ聖躬ヲ勞セララルモノハ速ニ國家治安

ノ基ヲ立テ衆庶ヲシテ各其所ヲ得セシメレ

トノ宸衷ヨリ出ル所ナレハ細民ニ至ルマテ

上意ヲ奉體シ益其職ヲ勉メ各其分ニ隨ヒ心

カシ盡シ報効ヲ圖ル可シ

元年十二月八日參觀

賭博ノ禁

賭博ヲ嚴禁ス東京府

近來賭博ノ禁ヲ犯スノミナラス往々不法ノ

言ヲ以テ他人ニ強迫シ或ハ商家ニ入りテ金

錢ヲ強借シ或ハ公然途上ニ輸贏ヲ鬪ハス等

ノ者アルヲ以テ此ノ如キ者ハ速ニ捕緝シ嚴

ニ處分スヘキヲ令ス

四月十五日宮堂上諸侯以下其家臣ニ至ルマテ

粗暴不法ノ所業アルトキハ主人タル者其罪責

ヲ免レサルヲ諭告ス行政官

脱籍浮浪人ノ處置ヲ申令ス行政官

脱籍浮浪ノ徒今尚流寓スル者アリ畢竟本貫

脱籍人ノ處
置ヲ申令ス

久離帳外ノ慣例ヲ禁ス

ニ復籍スルコト能ハス各地戸籍ノ法備ハラサルニ因ル此ノ如キハ政體ヲ障害スルモ亦知ル可ラズ因テ府藩縣及ヒ諸采地中ノ脱籍者ヲシテ速ニ本地ニ還ラシム可ク若シ之ヲ放棄シ惡業發露スルトキハ主宰者其罪ヲ免ル可ラサルヲ令ス
元年八月四日二年二月朕參觀

二十三日久離帳外俗曰ノ勅當ノ慣例ヲ禁シ不良子弟ノ處分ヲ令ス東京布達
戸籍法ヲ改正セシニ由リ従前久離帳外ノ例ノ如キハ素ヨリ聽許ス可キモノニ非ス致シ不良ノ子弟ハ年寄町役懇ニ教戒ヲ加ヘ尚悛メサル者ハ訴願シテ人足寄場ニ入監セシメ

發砲申禁

其改悛ヲ待テ失踪者ハ之ヲ上報レ歸來ノトキモ亦上報セシメ失踪者惡業ヲ以テ捕緝ヤラルモ本籍父兄ハ其連累タルヲ免スヘキヲ令ス

二十八日市中ニ發砲スルヲ申禁ス

太政官達

發砲ハ從來之ヲ嚴禁スルモ近來諸家從者ノ輩濫ニ小銃ヲ以テ禽鳥等ヲ獵スル者アリ甚々不肅ニ屬ス因テ巡邏兵等ヲシテ之ヲ查察セシメ此ノ如キ者ハ其氏名ヲ推糺シ銃器ヲ收メ其主人ニ責付スヘキヲ以テ各主人ヨリ豫メ注意スル所アラシム
元年十月十七日五年正月二十九日參觀

出版條例

丑月十三日出版取調所ヲ設置シ出版條例ヲ定

ノ書籍ヲ出版セルトスル者ハ昌平開成兩學校
ニ上願セシム官行改

條例ノ略ニ曰ク其一出版ノ書籍ハ著述者出

版人須賣所ノ姓名住所ヲ記載ス一枚摺ノ者

之ヲ犯ス者ハ罰金ヲ科ス其二妄ニ教法ヲ説

キ或ハ他人ヲ誣告シ或ハ政務ノ機密ヲ洩レ

或ハ誹謗シ及ヒ淫蕩ヲ導クコトヲ記載スル

者ハ其輕重ニ隨テ罪ヲ科ス其三圖書ヲ出版

スル者ハ官之ヲ保護シ專賣ノ利ヲ收メシム

保護ノ年限ハ率テ著述者ノ生涯中ニ限ルト

雖モ其親屬之ヲ保護セント欲スル者ハ之ヲ

聽可ス其四圖書ヲ出版スルニ先々テ書名

著述者出版人ノ氏名住所書中ノ大意等ヲ具

ハ學校ニ提出ス學校異見ナキモノハ捺印シ

テ之ヲ還付ス其圖書ニハ此免許ノ月日ヲ併

列ス其五出版ヲ上願スル者ハ刊成期限ヲ定

メ誦書ヲ納致ス可キコトヲ記載ス其六刊成

ノ後學校ニ五部ヲ納ム其七官ニ告ケスシテ

書籍ヲ出版スル者經ニ之ヲ頒賣スル者ハ版

木及ヒ製本其賣得金ヲ併ヤテ之ヲ官沒ス其

八官許ヲ受ケスシテ官許ノ名ヲ冒ス者ハ罰

金ヲ科ス其未タ發兌セサルモノモ亦同シ其

九重版ノ圖書ハ版木製本ヲ併セラ官沒シ且

罰金ヲ科ス之ヲ頒賣スルモ亦同シ罰金ノ多

少ハ著述者出版人損害ノ多少ニ準シ之ヲ被

害者ニ付與ス其十凡ソ新タニ舶載セシ圖書

ヲ翻刻スル者モ亦專賣ノ利ヲ收メシム舊版
 磨滅スルヲ見テ再刻ヲ出願スルハ磨滅ノ度
 二從テ聽可ス其十一凡ソ著述及ヒ翻刻ノ圖
 書ヲ雙方ヨリ上願スルトキハ轉授ヲ得テ出
 版自在ナル可シ其十二翻譯練兵書類ハ專ラ
 新式ヲ案フヲ以テ歲月ノ期限アル可ラス特
 二大圖ヲ縮小シ小圖ヲ拓大ニシ或ハ舊本ニ
 評註ヲ加フル等ノ如キハ臨時之ヲ議定レ本
 人ニ害ナキ者ハ聽可ス其十三凡ソ活字ヲ以
 テ出版スルモノ亦前例ニ同シ其十四凡ソ圖
 畫肖像戲作等モ亦前例ニ同シ
 正月二十七日參觀
 十五日參與大木民平本職ヲ免シ東京府知事ノ

職務ヲ攝スルコト致ノ如シ
 元年十二月四日二年七月十五日參觀

二十日東京府所轄ニ係ル寺院ノ從者等ニ犯罪
 アルトキハ同府ヲレテ之ヲ糾訊セシム
東京府 伺前法

彈正臺ヲ置テ

二十二日彈正臺ヲ置キ其官等職員ヲ定ム
 尹一人一等官弼一人二等官大忠二人三等官
 少忠二人四等官大疏二人六等官少疏二人七
 等官史生若干八等官巡察彈正十人六等官ト
 ス

七月八日三年四月二十九日參觀四年七月
九日彈正臺ヲ廢ス

市中取締規則

是月市中取締規則ヲ頒ツ
東京府 所定
 規則ノ略ニ曰ク其一市中取締兵隊ヲ設ケラ

ル、ハ專ラ市民ヲシテ安堵營業セシムルノ
 旨ニ出ルヲ以テ市民ノ疾苦ト為ラサルニ注
 意ス可シ其二所管区内ハ晝夜巡邏ヲ懈急ス
 ルコト勿レ其三奸民盜賊脅迫取財其他暴行
 者アレハ速ニ之ヲ緝捕シ罪按ヲ具シテ當府
 ニ護送ス其四軍務官所轄ノ兵卒ハ暴行ヲナ
 スモ之ヲ縛セス總ニ押捕シテ誦官糾問所ニ
 送付シ其狀ヲ當府ニ陳報ス但強拒スルトキ
 ハ之ヲ捕縛スルモ可ナリ其五所管区内ニ屯
 所等ヲ設置スルトキハ町内ニ協議スルノ後
 當府ニ許否ヲ稟候ス其六屯所ノ入費及ヒ其
 他ノ雜費ハ藩公ヨリ支出ス其七外國人ノ通
 行ニハ懸ニ心ヲ用ヒ若シ之ニ對シ粗暴ノ舉

動ヲ為ス者ヲ見聞スルトキハ速ニ捕縛シテ
 當府ニ護送ス其八市中取締ノ兵隊ハ姦盜暴
 亂ニ警備スル者ナレハ市中ノ公事訴訟等ニ
 一切關係スルコトナキヲ要ス
 元年十二月十七日參觀

教育所設立

教育所ヲ設立ス東京府
 教育所ヲ三田一丁目ニ設ケ鰥寡孤獨及ヒ係
 累衆多クシテ糊口ニ窮スル者ハ世話掛大中
 年寄副年寄等ノ添簡ヲ持レ誦所ニ教育ヲ請
 願セシム
 九月二十七日參觀
 六月十八日彈正臺ヲ八代洲河岸松平左衛門佐
 ノ舊邸ニ移ス初ノ宮中

八月七日參觀

二十三日急使ニ非ルヨリハ乘馬疾驅スルコト
勿ラシメ且馬丁等ノ乘馬スル者アルヲ以テ其
主人ヨリ之ヲ禁止セシム

二十七日櫻田馬場先和田倉ノ三御門内ニ非人
乞食ノ出入スルヲ禁止ス官軍
三年三月五日參觀

明月二日以降彈正大少志巡察等ヲシラ官中府
中城中市中ヲ巡察セシム行改

市中巡察ノ次其處ニ亂彈スヘキ事項アルト
キハ取締出張所ニ亂彈シ便宜之ヲ取締所ニ
託保スヘキヲ知會セシム
四年七月九日彈正臺ヲ廢ス

種痘所設立

是月市中各地ニ種痘所ヲ設ケ未痘見ニ施播ス

東京 十月 映 參觀

七月二日奸曲無類ノ徒各地ヲ徘徊シ暴行少ナ
カラサルヲ以テ府藩縣ヲシテ之ヲ追捕セシム

軍務官ヲ廢シ
兵部省ヲ置ク
刑法官ヲ廢シ
刑部省ヲ置ク

八日軍務官ヲ廢シ兵部省ヲ置ク
刑法官ヲ廢シ刑部省ヲ置ク

省ヲ兵服橋内舊幕府北町奉行邸即チ舊刑法
官ノ址ニ設ク
四年七月九日參觀

彈正臺ノ職員ヲ更正ス
尹一人執法守律内外ノ非違ヲ糾彈ス大弼少

刑律中ニ改定ス

舊幕府ノ刑律中ヲ改定ス 東京府何刑
法官田卷

彌名一人其掌ハ尹ニ同シ大忠三人少忠三人
共ニ權官ヲ置ク宮中府中ヲ巡察シ非違ヲ糾
彈ス大疏少疏共掌ハ他ノ大少録大少主典ニ
同シ大巡察少巡察巡察屬府藩縣ヲ巡察シ非
違ヲ糾彈ス其他火生臺掌使部ヲ置ク

五月二十二日參觀四年七月九日彈正臺ヲ
廢ス

刑法中主人ヲ殺傷スル者ハ梟首シ僧ノ女犯
ヲ為ス者ハ本寺觸頸ニ交付シ寺法ヲ以テ處
罰セシメ男女情死未遂ノ者ハ之ヲ非人下手
ト為シ而シテ晒引廻鋸引ノ刑ヲ發ス
八月五日參觀三年十二月新律綱領ヲ制定
ス

十日彈正臺ノ職權ヲ定ム 太政
官改

彈正臺ヲシテ
大獄ニ臨會セシム

制度布告賞罰等ハ其時々彈正臺ニ告達シ勅
授官以上茲ニ華族ノ叙爵黜陟ハ彈正臺之
臨會レ大少忠ハ日々太政官ニ出任シ中外ヲ
巡察巡警レ諸省待詔院集議院東京府等ハ略
々大少忠大少巡察等ヲシテ巡察セシメ刑法
大獄アルハ彈正臺ヲシテ臨監セシム
五月二十二日參觀四年七月九日彈正臺ヲ
廢ス

十三日教逆若クハ華族及ヒ在官五位以上ニ關
スル鞠獄ハ彈正臺ヲシテ之ニ臨會ヤシム 辨官
選
四年七月九日彈正臺ヲ廢ス

十五日東京府知事職務攝理大木民平東京府大
參事ニ任ス
五月十五日十月三日參觀

八月五日舊幕府ノ刑律中ヲ改定ス刑部省

刑法中従前ノ磔ヲ磔罪、梟首ヲ梟示、刎首ヲ斬

罪、徒刑ヲ徒刑、笞刑ヲ笞罪ト改メ笞罪一十ヨ

リ一百ニ至リ徒刑一年ヨリ三年ニ至リ且一

年ヲ基本トシ半年追加ヲ以テ都テ五等ト為

シ流罪三年五年七年ヨリ終身ニ至ル笞ト徒

トハ府藩縣ヲシテ之ヲ執行セシメ流罪自盡

斬罪梟示磔、誅當スル者ハ之ヲ刑部省ニ稟

候シ且死刑以上ハ天裁ヲ經由ス

七月八日參觀三年十二月新律綱領ヲ制定ス

七日彈正臺ヲ大名小路三條實美ノ舊邸ニ移ス

六月十八日三年八月二十二日參觀

彈例制定 官太改

彈例ニ曰ク親王及ヒ諸司ノ奏任非職ノ五位

以上ノ犯解官親王ハ以上及ヒ判任以下庶人

ノ父母ヲ毆テ叛逆、連累スルモノハ奏彈ス

自餘ハ直々ニ刑部省ニ糾移ス判任以下ノ解

官以上ハ臺ニ糾彈シ自餘ノ犯ハ本司及ヒ府

藩縣ノ司ヲ召シテ糾彈ス又庶人ノ非違ハ巡

察視ル所ヲ審ハレ府官ニ移シテ之ヲ糾サレ

ム藩縣之ニ同シ但本司府藩縣ノ司ハ判任以

上ヲ召ス應須糾知シテ犯罪未タ其實ヲ審カ

ニセス據狀勘問スハキハ刑部省ニ移レテ推

搦セシメ委ニ事由ヲ知テ事大詳官ナラハ奏

彈ス又罪條既ニ明著ニシテ勘問ニ及ハス或

ハ告密ニ涉リ事急卒ニ出ルモノハ直々ニ刑

部省ニ告テ捕縛セシメ其推搡スル所ヲ得テ
 事大ナラハ奏彈ス其直クニ省ニ告テ捕縛セ
 シメ推搡スルノ時解官以上ノ罪ハ大忠以下
 一人省ニ臨テ是ヲ聽ク又臺ヨリ發スルノ罪
 ニ非スト云フトモ大獄ニハ大忠以下監臨ス
 刑部者死囚ヲ決セハ斷案ヲ臺ニ移ス若シ冤
 狂灼然タルアラハ決テ停メテ奏聞ス又死罪
 既ニ奏報スト雖モ猶冤枉ヲ訴ヘ事疑フ可キ
 アラハ推覆シテ具狀奏聞ハ犯罪發覺スル所
 ヲ論セス杖罪以下ト雖モ科斷ハ一々刑部省
 ニ付ス親王大臣以上官人及ヒ準族ヨリ庶人
 ニ至ルニテ車馬兵仗衣服從者ノ數法則ニ違
 ヒ準麗僭奢ニ過ルモノハ亂彈ニ吉凶ノ禮法

ヲ超ルモノモ亦同シ官司枉判アレハ所由ヲ
 追テ糾正ス官人本司ニ於テ政ヲ行フニ怠慢
 シテ缺有ラハ之ヲ糾劾ス納表匱ニ官人ノ害
 政及ヒ抑屈ヲ告ルノ書ハ辨官右大臣ニ上リ
 不可後臺ニ受テ其所訴ヲ按察シ當理ハ奏聞
 論事大ニテ不當理ハ之ヲ彈シテ刑部ニ移ス
 京中ノ巡察ハ每町坊令一人ヲ從ヒテ巡視ス
 若シ急卒捕縛スヘキ者アラハ巡邏ノ兵シレ
 テ縛セシメ先ツ勘問シテ所司ニ移ス巡察彈
 正時々京中便地ヲ點シ坊令ヲ從ヒ戸主ヲ會
 集セシメ巡察之ニ臨ミ京府官人及ヒ坊令等
 百姓ヲ枉害セハカ時政其宜ヲ得サルカ若シ
 義節ノ顯ハレサルモノ有ルカヲ問フ藩縣之

ニ同シ時々因獄ヲ檢校シ獄司ノ非違ヲ糾彈
之人罪ヲ告ルモノアラハ宜ク三審ノ法ヲ用
ユヘシ告密モ亦令文ニ據ル奏彈ハ太政官ヲ
歴スシテ直々ニ奏聞スト雖モ時宜ヲ計リ尹
若クハ弼右大臣ト共ニ奏ス可シ尹弼アラサ
レハ大忠右大臣ニ就テ奏之但右大臣ノ外職
事ヲ預リ聞リコトヲ得ス親王及ヒ參議以上
ノ罪ヲ糾劾ス可キハ時宜ニ從テ制スヘシ其
朝堂ノ非違ハ式ノ例ニ準ス但參議以上ハ尹
弼在ルニ非レハ彈之ルヲ得之四位以下ノ糾
彈ハ悉ク臺ニ召ス參議以上身病アレハ家令
ヲ召シテ勘問之家令本主ニ告テ猶ホ答テ肯
セナシハ忠以下其家ニ向テ對彈之四位以下

病アレハ其愈ルヲ俟テ臺ニ召ス但急卒ノコ
トアレハ此例ヲ用ヒス臺喚三度ニシテ參ヤ
ス茲ニ勘事ヲ辨申セラル者ハ罪ニ處ス非常
巡察ノ藩縣ニ發シ政事ヲ覆問シ非違ヲ糾彈
之可キハ詔使ノ例ニ準テ叛逆告密アルニ非
ル以外ハ内差之ルコト有ル可ラス但勘問ニ
出ルモノハ此限ニ在ラス彈正私シ扶テ事實
ナラサハ者ヲ彈セハ及坐ノ法ニ準ス尹若シ
犯スコトアラハ弼以下忠以上共ニ議判シテ
奏彈之其臺中ノ官人非違アラハ各相彈之朝
議法律ニ關スルモノハ彈正悉ク預リ知ル可
シ儀式衣冠等ノ制度モ亦同レ

三年二月二十八日參觀

乞弓ヲ舊里ニ送還ス

十七日東京市中ノ乞弓等ヲ撻戮シ舊里ニ護送ス

市中ニ流氓スル氓隸乞弓ノ徒ハ東京府シテ之ヲ撻戮セシメ廢疾老幼ヲ除キ壯健者ハ舊里ニ還任セシメ竹管藩縣ニ令シ復々管轄外ニ放出セシメサラシム
口年十月十四日參觀

救育所設立

二十七日救育所ヲ高輪ニ設ク東京府市中ニ流氓スル乞弓中ヨリ老幼廢疾者ヲ拾收シ悉皆之ヲ救育所ニ撫育ス

宮門守衛規律

是月諸宮門守衛規律ヲ定ム兵部省規律ノ畧ニ曰ク通常閉鎖ノ御門ハ特ニ達示アルニ非レハ通行ヲ禁止シ外櫻田馬場先和

舊一橋神田橋常盤橋吳服橋鍛冶橋數寄屋橋日比谷ノ十門夜中ハ印鑑ニ照合シテ通行セシメ親王大臣ハ夜中半扉ヲ開キ騎馬者夜中ハ外形門ノニ半扉ヲ開キ成牌以後ハ無燈ヲ禁レ不審ノ者ハ之ヲ推亂シ非常ノ際ハ最モ警戒ヲ嚴ニセシム
三年三月廿日參觀

十月三日水原縣知事壬生基修東京府知事ニ任

七月十五日四年七月二十三日參觀

五日寄席ニ於テ男女混合シ歌舞伎類似ノ所作ヲ演ズルヲ嚴禁ス東京府十年二月十日參觀

府下警戒嚴云

十七日兵部省東京府ヲシテ東下府下ノ警戒ヲ嚴ナラシム

特太政官

頃來夜間盜賊市中ヲ横行シ或ハ兇器ヲ携持シ却掠殺奪ノ所業アルヲ以テナリ二十日兵部省此旨趣ヲ取締諸藩隊長ニ通告シ夜中ノ巡警ヲ嚴密ニセシム

二十三日府廳門前ニ盜難届接受函ヲ備置シ人

民ヲシテ申牒書ヲ此ニ挿入セシム

是月種痘分場ヲ各地ニ増置シ其價ヲ徴セシ

シ之ヲ施播セシム

生見七十五日ヨリ百日間ニ其施術ヲ出願セシム

六月 映彦 觀

東京府府下武家地ヲ併管ス

十一月二日東京府ヲシテ府下武家屬地ヲ併管シ府治一般ノ體裁ヲ建立セシム

武家屬ノ地所ハ從來ノ體裁ニ因襲シ其所轄分明ナラズ隨テ取締モ亦周到セズ自然無

賴ノ徒ノ潛窟ト為リ兇盜ノ所業ヲ恣ニシ下

民ノ疾苦ヲ醸出スルニ至ルヲ以テナリ

無刀乘馬ヲ禁

無刀乘馬ヲ禁

四年四月十八日 映彦 觀

十日市街ニ木戸ヲ設ケ初夜之ヲ閉鎖シ警戒

シ嚴ナラシム

頃日盜賊兇漢暴橫ヲ極ムルノ聞ハアルヲ以テ

兵隊ヲシテ巡邏セシムト雖モ願フテ市街ハ路線縱横ニシテ賊輩逃匿ニ易キカ為メ

人行少キ地ハ要所ニ柵門ヲ設ケ通衢ニハ街
頭ニ常夜燈ヲ點シ町費ヲ以テ協議供出セシ
ム

三年正月十二日參觀

府兵掛ヲ置ク

十五日東京府中ニ府兵掛ヲ置キ府下ノ取締ニ
諸藩兵ヲ充用ス東京府

律キニ府兵設置ノ議アリ然トモ其事固ヨリ

容易ナラザルヲ以テ姑ク兵部省ヲシテ諸藩

兵士ヲ撰拔シ之ヲ東京府ニ配送シ其約束辨

令賞罰黜陟ハ東京府ニ委任セシム

是ヨリ先キハ東京府取締條件ヲ稟申シテ曰

ク其一府下取締兵隊ハ進退指揮等舉テ之ヲ
本府ノ權下ニ委任セラルハ、ヲ希フ其二前項

取締兵隊ヲ總括スルノ人物ハ兵部省ヨリ選

出し東京府少參事或ハ權少參事ニ兼勤セシ

メラル可シ其屬吏等ハ捕亡探索吏ヲ毎用之

其三武家地市街地ヲ區別シ区内ニ長ヲ置キ

取締事務及ヒ諸務ヲ管セシム其四武家地ハ

三十區或五十區ニ分テ每區ニ觸頭ヲ定メ從

來ノ觸頭ヲ改革セレ但區制一定後其觸頭ハ

辨官之ヲ命スルモ或ハ本府直々ニ之ヲ命ス

ルモ體裁便宜ニ從ハレ其五武家ハ一区内ノ

戸數ト祿額等ニ應シ人員ヲ徵發ス例ハハ祿

百石ヨリ取締一名ハ、交番ヲ定メ日々此西

ニ詣テシメ晝夜区内ヲ巡警シ形迹疑ハシキ
者アリハ速ニ觸頭ヨリ本府ニ護送ス可シ其

六区内ニ斃死人アレハ綱頸ヨリ速ニ本府ニ
申牒ス其七上地或ハ空邸ハ悉皆排除セシム
其八屬官數名ヲシテ日々武家地市街地ヲ巡
廻セシム其九兵隊ハ其化竹ニ番舎ヲ張り關
門ヲ諸要地ニ設ク但地形ノ便宜ニ從フ其十
市街無燈ノ夜行者ヲ禁ス其十一揮索人ヲ特
置スルタメニ豫メ人物ヲ推揆ス其十二府治
體裁ノ立制ヲ命セラレタムヲ以テ其旨趣ヲ
華士族ニ布告セラレレコトヲ要請ス以上ハ
現今府下取締施行ノ要項ニシテ春來既ニ其
處道ニ着手セシト欲セシモ顧フニ府下百萬
有餘ノ人民中ニハ無産無賴ノ徒多クシテ一
時検査ノ法ヲ嚴ニセハ失産ノ輩或ハ相集リ

秦末流民ノ殃禍ヲ醸出スルハ可クサハ
ヲ以テ授産方法ノ成立ヲ待タシニ目下歸籍
歸藩ノ順序小倉牧地開墾ノ順序救育所授産
ノ順序等其他大概ノ目的已稟請スル所ナ
リ以テ今又前議ニ着手スルノ順序ナハラ思
量セリ其翌日又建議シテ曰ク府下取締ニ關
シ從來施設スル所其方許多ナリト雖モ不虞
ヲ警戒スルハ兵備アルニ非レハ能ハス況ヤ
東京百萬有餘ノ人民ヲ保護シ其取締ヲ立ル
ニ於テ固ヨリ之ニ應ズルハ兵備ナカレハ可
ク去々年勅募ノ常備兵ヲ置キシモ一時創造ノ
際組成セシヲ以テ多少ノ弊害ヲ生出セシ
由リ昨冬之ヲ解散セリ其後兵部省吏ニ諸藩

ヲニラ出兵セシメ之ヲ當府ニ送遣シ取締
免ルト雖モ其進退ハ同省之ヲ銜制シ藩命ヲ
以テ隊長以下ヲ專任ス致ニ其勢一途兩端ニ
涉リ當府ハ之ヲ驅馳スルコト急ノ如クナラ
ズ夫レ勤怠ヲ精査シ勞逸ヲ均一ニシテ而シ
テ之ヲ進退黜陟スルヲ以テ藩令行レ法律立
ツ然ルニ此ノ如ク主者ノ之ヲ總括スルナキ
カ為ニ兵隊モ亦其方向ヲ一定セズ府内捕亡
探偵吏ト相衝キ獐々ノ患難ヲ生出スルコト
斷シトナサズ是ヲ以テ持久府兵ノ體裁ニ劔
ハレトスルモ輕卒之ヲ行ハ、又忽々弊害ヲ
生出スルノ虞アリ故ニ現時ノ藩兵ヲ用弁之
ヲ府兵ニ擬シ當府領用ノ兵員ハ之ヲ兵部省

ニ申牒シ同省ハ諸藩兵士ヲ撰拔シテ當府ニ
送遣シ其約束弛令進退部署賞罰黜陟遣ス所
ナク我權下ニ委任シ准其重大ニ係ル事件ノ
ミヲ稟決施行スルコト、セレ此議章ニ採納
ヲ得ハ又兵部省ニモ照命アラレコトヲ希フ
但現今府藩縣ニ治一途ニ歸スルノ政體ナレ
ハ名藩ノ兵士ハ即チ朝廷ノ兵士ニシテ朝命
ヲ奉シ東西ニ奔走スルハ固ヨリ府藩縣ノ別
アル可ラズ已ニ府藩縣ノ別ナレトスレハ何
レノ聽ニ屬シ何レノ令ニ服シ何レノ命ヲ奉
セサルコトナキハ固ヨリ至當ノ理ナラフ考
量シ此議ヲ稟スト太政官其議ヲ納シ東京府
ノ請ヲ所ヲ允レ兵部省ニ令シテ兵士ヲ徵獲

シ東京府ニ交割セシム
十二月 映彦 観

十八日東京府大参事大木氏平東京府権知事ニ
任ス

二十一日東京府権知事大木氏平本官ヲ免シ更
ニ東京府大参事ノ職ヲ奉セシム

民平上疏シテ本官ヲ辭ス朝廷其請ヲ容レ更
ニ大参事ノ職ヲ奉セシム

二十五日兵部丞ヲシテ東京府出仕ヲ兼子シム
市中取締ノ事項ヲ嚴達セシム 兵部 省達

二十八日府下市在游手浮食ノ徒博奕シ木業ト
為ス者ヲ逮捕ス 東京 府達 陽ハ日雇稼業ヲ名トシ
游手浮食ノ徒ニシテ

其實博奕ト業トスル者ハ過般己ニ之ヲ驅作
セシモ尚ホ殘徒ノ潜匿スルモノアラハ速ニ

捕緝シ便宜取締兵隊ニ逸附セシム其屋舎ヲ
貸與シ若クハ留宿セシムル者ハ本人ニ論ナ

ク所管役人ニ至ルマテ連坐ス可キヲ嚴令ス
是月諸家ノ中間 雇 夫 或ハ抱爲人足 消 防 等ノ名稱

ヲ假リ錢緡ヲ造リテ商家ニ強賣スル者ヲ嚴督
ス 東京 府達

錢緡ヲ強賣スル者ハ舊幕府以來ノ弊習ニシ
テ此輩若シ答辭ノ意ニ副ハサルアリハ法外

ノ所行ヲ為ス者アルヲ以テ容ク所ナク捕緝
セシム

囚獄刑部省屬

十二月八日東京府管轄ノ囚獄ヲ刑部省ニ屬ス

特政官

四年七月九日刑部省ヲ廢シ司法省ヲ置カ
ル。際レ司法省ニ屬シ其八月十八日再
ヒ東京府ニ屬ス。

府兵規則

是月府兵規則ヲ頒テ每組合ニ總長一名ヲ置キ
諸務ヲ攝理セシム東京府所定

總長等ニ達示シテ曰ク府下取締ノ事ヲ改革
シ府兵規則ヲ制定シテ之ヲ諸兵ニ頒布セラ
ル汝等其身ヲ正クレ諸隊長ヲ教誡シ指揮其
宜レキヲ得テ上意ヲ貫徹スルヲ努ム可シ規
則ノ略ニ曰ク其一府下鎮撫ノ為メ兵隊ヲ置
カルハ亂暴ヲ禁シ盜賊ヲ防キ民庶ヲシテ
安堵營業セシムルノ厚旨ニ基ツケル所ナレ
ハ夫卒ニ至ルマテ上意ヲ體認シ軍律ヲ固守

シ諸氏ノ疾苦トナラサルニ注意スヘシ其二
府下出張中ハ凡テ藩名ヲ頒ヒス第一ヨリ第
六ニ至ル區名ヲ冒シ幾區取締兵隊ト稱ス但
第五ノ組合ハ一區ヨリ九區ニ至リ第六ノ組
合ハ一區ヨリ六區ニ至ル其三所管區中ハ晝
夜巡邏ヲ懈ラス脅迫シテ賤貨ヲ奪取レ其他
暴行ヲナス者ハ何人ヲ問ハス之ヲ捕緝ス但
盜賊ハ其踪跡ヲ探索シテ逮捕スルヲ要ス其
四初夜戌牌以後無燈ニシテ通行スル者ハ其
姓名住所並ニ主宰者ニ至ルマテ之ヲ推記シ
形迹疑ハシキ者ハ時宜ニ依リ緝捕ス但就縛
者ハ其顛末ヲ具シテ本府附獄掛テ護送ス其
五形迹疑ハシキ者ヲ捕緝セシトキハ先ツ其

罪迹ヲ詰問シ奸盜或ハ強借暴行等ノ所行ア
 レハ務メテ懲ニ之ヲ緝捕ニ若シ強拒力争セ
 ハ殺死スルモ亦可ナリ其六官員及ヒ諸兵隊
 喧嘩争論若クハ醉狂シテ民間ノ患苦スル所
 ト為ルトキハ其條理ヲ推訊シ時機ニ依リ之
 ヲ捕押シテ直チニ所管隊長ニ引致シ本府ニ
 具狀ニ若ノ事ノ殺人竝ニ放火盜賊等ニ涉ル
 者ナレハ何人ヲ問ハス直チニ捕縛シテ本府
 ニ護送ス其七所管区内ニ身位曖昧ナルモノ
 在位スルトキハ其形迹ヲ推糾シテ之ヲ具狀
 之其ハ外國人ノ通行ニハ能ク其心ヲ注キ若
 シ之ニ對シ不當ノ言動ヲナス者アレハ之ヲ
 捕拿シ姓名居所ヲ推糾シ本府ニ具狀ス但時

宜ニ依リ此所ニ留置シ本府ノ指揮ヲ兼ク其
 九区内ニ屯所配兵所等ヲ設クハトキハ町内
 ニ詢リ協諧ノ後チ本府ニ申牒ス其十市中ノ
 公事訴訟等ニ關係スルヲ許サス若シ陰ニ加
 擔セシコトノ發聞スルアラハ之ヲ貸サス其
 十一總長一名ヲ一組合ニ置キ大小ノ諸務其
 指揮ヲ受ケシム其十二罪人ヲ捕獲セシトキ
 ハ總長ニ報シ其指揮ヲ受ケ本府ニ護送ス其
 十三同大區中ノ兵隊ハ總ヲ同隊ト思量シ緩
 急アレハ應接ニ違々スル莫レ但組合外ノ大
 區ニテ事ノ見聞ニ觸ルハアルトキハ長短ヲ
 幫助シ協力ヲ努ム其十四盜賊等ニ關シ其推
 問ノ夕メ町役人ヲ召喚シ或ハ夜番者ヲ使用

スルモ可ナリ但儘リニ町役人夜番者等ヲ使
 用スルヲ嚴禁ス其十五火災アルトキハ專ラ
 盜賊ニ注目シ災家ノ物貨ヲ運搬スルニ妨障
 者ヲ排除セシメ消防者ノ運動ニ便利ヲ與フ
 ルヲ要ス其十六相撲演劇總ヲ觀客ノ群集ス
 ル場地ヲ巡警スルトキハ特ニ注意シテ演技
 ノ障害ヲ防キ營業ノ幫助ヲナスヲ要ス以上
 ノ條件ハ隊長ヨリ夫卒ニ至ルマテ訪則ヲ體
 認シ一層取締ニ努カス可レ

三年八月十五日四年二月廿日九月十四日
 觀

警察
 紀
 録

